

あなたにも
できる！

学校・地域で取り組む

「文化プログラム」

事例・ノウハウ集



はじめに

オリンピック・パラリンピックは、「スポーツの祭典」であると同時に、「文化の祭典」であると言われています。「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次基本方針）」（2015年5月22日閣議決定）においても、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）を我が国の文化財や伝統等の価値観を世界に発信するとともに、文化芸術が生み出す社会への波及効果を生かして諸課題を乗り越え、成熟社会に適合した新たな社会モデルの構築につなげていくまたとない機会ととらえ、リオ大会後から全国の自治体や企業等と連携して文化プログラムを全国津々浦々で推進していくことを目標としています。

2016年10月からは東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が「東京2020文化オリンピアード」の認定制度を開始し、政府も内閣官房オリンピック・パラリンピック推進事務局を中心に同年12月から「beyond2020プログラム」の認定を開始し、こうした文化プログラムに関する認定の枠組みが整備されました。

本冊子は、全国各地の小中学校・公民館等において実施できる文化プログラムの事例を、比較的開催が平易なものを中心に、実施内容・開始手順等とともにご紹介するものです。

今後、文化プログラムの実施に向けた取組を推進していくため、本冊子が文化プログラムの一層の浸透を図る一助になれば幸いです。

文化プログラムとは

学校での文化プログラムは、子供たちが自分で直接試してみること、見てみることに、聞いてみることに、行ってみることに、参加してみることから始まります。直接経験を伴わない仮想現実が溢れる今、自分で身体や手を動かしたり、熟練の技や実演を目の当たりにしたり、実際の経験として文化を「実感」する機会が大切です。祭りの準備に加わる、郷土料理で調理実習する、工芸品づくりを試す、読み聞かせの語り手になってみる…教科のカリキュラムを一工夫するだけでも、子供たちの経験を豊かにする文化プログラムになります。「学校は文化プログラムの宝庫」—東京2020大会をきっかけにぜひ取り組んでみてください。

箕口 一美（東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科講師）

目次

はじめに	1
この本の見方	4

第1章 文化プログラムの概要 5

オリンピック・パラリンピックにおける文化プログラムの位置づけ	6
東京2020大会文化プログラムのコンセプト	8

第2章 文化プログラムの事例・ノウハウ集 9

地域の伝統工芸、地域の食を守る	10
地域食材を育て、味わって知る「郷土の味」	12
日本料理の基本 だしのとり方	14
おいしいお茶の入れ方	16
保存会の協力のもと郷土芸能を継承する	18
歌をつくる	20
パラパラアニメーションをつくる	22
多文化共生	24
ともに生きる—高齢者との交流	26
風呂敷包み	28
落語	30
地域の祭りを伝承する	32
郷土の宝を探し、誇りをもつ	34
【コラム】文化芸術基本法の改正	36

第3章 発展型の文化プログラムの事例・ノウハウ集 37

「よみきかせ」と「おしばい」を味わう	38
楽描（らくがき）	40
シナリオライティング	42
感性を働かせて、身体でつくる	44
草木染めと日本の色彩	46
手作り新聞・ルポの発信	48
特別支援学級で学ぶ共生	50
【コラム】まちごと美術館ことごと	52
【コラム】被災者の心を支える「日田祇園祭」	54
【コラム】水と土の芸術祭	56
【コラム】地域アーツカウンシルの活動	58

第4章 文化プログラムの企画から実施までのポイント 59

企画から実施まで	60
【ポイント】文化プログラム推進のポイントー地域人材の有効活用	64
【ポイント】文化プログラム推進のポイントー地域の美術館と学校との連携	66
【ポイント】文化プログラム推進のポイントー大学のアウトリーチ活動	68
【ポイント】文化プログラム推進のポイントー文化を伝承するための教員育成	70
【コラム】文化芸術による子供の育成事業	72

第5章 2020年とその先に向けて 73

東京2020大会に向けた文化プログラムの枠組み	74
-------------------------------	----



この本の見方

この本の第2章及び第3章では、文化プログラムの活動事例を中心に掲載しています。一つの事例を見開きで、わかりやすくまとめて紹介しています。ページを構成する要素は、下に示すとおりです。

時間数、講師、実施形態、ねらい、対象などを示し、学校の指導計画に位置づけやすくなるようにしています。

活動をスムーズに行うために、事前に行っておくとよい準備を示しています。

準備で特に気を付けるとよい点や、工夫を示しています。

活動（授業）の展開の仕方を写真入りで掲載し、活動のイメージをつかみやすくしています。

2章

地域の伝統工芸、地域の食を守る

織り上げる楽しさ、地域の食を堪能

【時間数】【手織り】1回(9:30～12:00) 【実施形態】【手織り】実施主体は、PTA サタコニ委員会 西学塾1名 (9月開校)による郷土の歴史、文化に関する学習

【ねらい】地域の伝統文化を知り、守り育てていく姿勢を育てる。

【対象】小学1年生～6年生(希望者) 約100名

地域に根々と継ぎついている伝統文化。伝統工芸士や地域文化の伝承者の力を借りて、子どもたちに伝統文化を伝えていきます。

事前準備

- 織り機
- 太鼓

TIPS 事前準備の3W

・外部講師と事前に打ち合わせする。

1 ACTION

織物を織りあげる楽しさを体験

多摩地域には、伝統工芸の多摩織や伝統芸能の和太鼓などが、今も受け継がれています。八王子市立丁小学校では、月に1回、8回にわたり「サタコニコミュニティ」を開催しています。手織り、和太鼓、英語、合唱、スポーツ体験、パソコンなどの講座が開かれています。手織りは子供たちに人気がある講座のひとつです。毎年受講している子供たちもいて、年々賑わっています。保護者も多数参加しています。講師をつとめるのは、織物組合の多摩伝統工芸士で、伝統の技を子どもたちに伝授してくれます。たて糸と横糸を結びながら、色あがききれいなマフラーを仕立てています。手作りだけあって、風合いがやわらかい「世界にひとつだけのマフラー」が出来上がります。講師は1年生から6年生まで参加できるので、上級生が下級生を教えたり、サガートしたりしています。そうした異学年の学びあいもあります。

2 ACTION

全学年で地域の食を学ぶ

丁小学校では、1年生から6年生まで地域の農家の協力を得て、食についての授業を行っています。1年生はとうもろこし、2年生はさつまいも、3年生は大豆、4年生はひょうたん、ゴーヤ、5年生は稲、へちま、6年生はじゃがいも、落花生を植えて、育て、料理して、食べます。3年生の児童は、大豆を植え、収穫してから、みそと豆腐を作ります。近隣の豆腐の生産者に来てもらい、豆乳にがりを入れて豆腐を作ります。みそは、「手前みそ」というように、おいしく出来上がりました。5年生の児童は、パケツに稲を植えて育て、脱穀、精米し、お米を炊き、みんなで「おにぎりパーティー」を開きました。6年生の児童は、じゃがいもを育て、給食に提供し、シチューをしていただきました。このように、食材を育て、食べることで、地域の食を大切にする気持ちが育っています。

地域の伝統工芸、地域の食を守る 織り上げる楽しさ、地域の食を堪能

活動例



▲見本のマフラーを見ながら織の手順を学習。

▲100年以上前の織り機（蒸機）を使って布を織る子供たち。

▲織り機を使ってたて糸と横糸を結び、マフラーを作る。

進め方 1

外部講師の指導のもとに進行する。

【手織り】

- ① 外部講師が手順や注意事項を説明する。
- ② 織り機を使って、マフラーを作る。

注意ポイント

技を必要とする手の込んだものは、体験としてとどめ、子供たちは簡単な織り機を用いて実用的な織物を製作する。

活動のヒント

地域の伝統工芸士と事前に打ち合わせする。保護者の協力を依頼する。

実施の状況や成果などがわかる解説文を掲載しています。

依頼先や相談先、参考になる団体などを示しています。

第1章

文化プログラムの概要

- オリンピック・パラリンピックにおける文化プログラムの位置づけ
- 東京 2020 大会文化プログラムのコンセプト

オリンピック・パラリンピックにおける文化プログラムの位置づけ

近代オリンピックの父、ピエール・ド・クーベルタンは、近代オリンピックの開催にあたり、古代オリンピックと同様に、スポーツと芸術の競技を実施することを考えました。

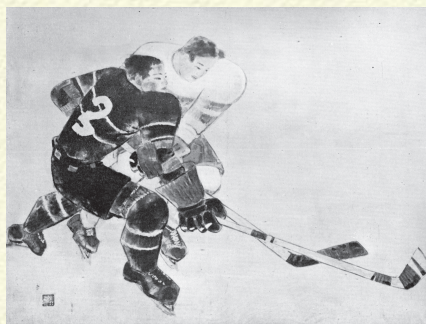
その考えに基づき、オリンピック憲章では、オリンピック競技大会と平行して、文化プログラムを計画することが定められています。

1 オリンピック憲章に掲げられている文化プログラム

オリンピック憲章は、国際オリンピック委員会（IOC：International Olympic Committee）によって採択されたオリンピズムの根本原則、規則、付属細則を成文化したものです。

オリンピック憲章の根本原則に「オリンピズムは、人生哲学であり、肉体と意思と知性の資質を高めて融合させた、均衡のとれた総体としての人間を目指すものである。スポーツと文化と教育と融合させることで、オリンピズムが求めるものは、努力のうちに見出される喜び、よい手本となる教育的価値、社会的責任、普遍的・基本的・倫理的諸原則の尊重に基づいた生き方の創造である。」と記されています。

さらにオリンピック憲章の第5章・第39条には「オリンピック競技大会組織委員会は、短くともオリンピック村の開村期間、複数の文化イベントのプログラムを計画しなければならない。このプログラムはIOC理事会に提出して事前の承認を得るものとする。」と定められています。



◀ 藤田隆治
「アイス・ホッケー」

2 過去の文化的要素、文化プログラムの流れ

第5回ストックホルム大会～第14回ロンドン大会では、オリンピック競技大会と平行して、芸術競技が行われました。

第11回ベルリン大会（1936年）、藤田隆治が「アイス・ホッケー」（絵画部門）で、鈴木朱雀が「古典競馬」（水彩画部門）で、銅メダルを獲得しました。しかし、1949年IOCは芸術競技を廃止しました。第15回ヘルシンキ大会（1952年）から開催国の文化について展示されるようになりました。

その後、第25回バルセロナ大会（1992年）から文化プログラムが行なわれ、現在まで続いています。過去のオリンピック・パラリンピックにおける文化的要素、文化プログラムの流れは、図表1の通りです。



▲ 鈴木朱雀「古典競馬」

▼図表1 オリンピック・パラリンピックにおける文化的要素の変遷

第1回アテネ大会～第4回ロンドン大会 (1896年～1908年)	文化的要素なし この時期のオリンピックは、万国博覧会に合わせて開催されていた。
第5回ストックホルム大会～第14回ロンドン大会 (1912年～1948年)	芸術競技の時代 スポーツを題材とした建築、彫刻、絵画、音楽、文学の5部門が「芸術競技」として実施された。参加したアーティストは、スポーツをテーマにした作品を制作し、メダルを競った。しかし、芸術作品をスポーツのように客観的に評価できないとの理由から廃止された。
第15回ヘルシンキ大会～第24回ソウル大会 (1952年～1988年)	芸術展示の時代 オリンピックの公式なプログラムとして、開催国の芸術を中心に展示された。1964年の東京大会では、美術部門（古美術、写真など）、芸能部門（歌舞伎、人形浄瑠璃、雅楽、能楽、古典舞踊・邦楽など）の公演や展示が行われた。
第25回バルセロナ大会～第29回北京大会 (1992年～2008年)	文化プログラム（文化イベント）の時代 芸術の展示にとどまらない多彩なプログラムや行事が実施された。バルセロナ大会では演劇、ダンス、音楽、オペラ、バラエティやストリートショーなどが行われ、バルセロナの都市ブランドの形成に大きなインパクトをもたらした。 2004年の第28回アテネ大会では、2001年から4年間にわたって「カルチュラル・オリンピアド（文化オリンピック）」が実施された。
第30回ロンドン大会～ (2012年～)	文化プログラムの新時代へ突入 演劇、音楽、ダンス、美術、文学、映画、ファッションなど多分野にわたる内容の文化プログラムを実施。開催都市ロンドンにとどまらず、イギリス全土で展開し、さまざまなレガシーをもたらした。ロンドン大会は、レガシー* ¹ という概念が重視された最初の大会である。

(出典：「オリンピック文化プログラムに関する研究および「地域版アーツカウンシル」の提言 2015年5月 (vol.2・3)」をもとに作成) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 政策研究事業本部 芸術文化政策センター 主席研究員/センター長 太下義之

(注1) レガシー

オリンピック憲章では、「オリンピック競技大会のよい遺産（レガシー）を、開催都市ならびに開催国に残すことを推進する」（第1章「オリンピック・ムーブメントとその活動」第2項「IOCの使命と役割」）と記されている。



▲ロンドン大会の文化プログラム
リーズ・キャンヴァス：中心市街地でのアート・プロジェクト
(撮影：太下 義之)



▲ロンドン大会の文化プログラム
リーズ・キャンヴァス：中心市街地でのパフォーマンス
(撮影：太下 義之)

東京 2020 大会 文化プログラムのコンセプト

文化プログラムを企画するにあたり、東京 2020 大会のビジョンに合致し、文化プログラムのコンセプトを実現することが必要条件です。

具体的な内容は、下記の条件を満たす必要があります。

- ・大会ビジョンに基づくものであること
- ・残すべき4つのレガシーコンセプトを実現すること

東京 2020 文化オリンピック事業の対象となる取組は、以下の通りです。

大会のビジョン及び文化オリンピックのコンセプトを実現する事業内容かどうか総合的に審査されます。

大会ビジョンに基づくもの

①: 全員が自己ベスト（革新性・新規性）

- 大会を契機に新しい取組にチャレンジしている事
- 既存事業であっても、新たな試みを取り入れている事

②: 多様性と調和（参画性）

- 人種や地域、障がいの有無を超えて、あらゆる人々が参加・交流する取組である事

③: 未来への継承（レガシー）

- 2020年以降を見据えた東京・日本の発展に寄与する取組である事
- 次代を担う若者を鼓舞する取組である事

残すべき4つのレガシーコンセプトの実現

コンセプト①: 日本文化の再認識と継承・発展

コンセプト③: 日本文化の世界への発信と国際交流

①: 日本文化の再認識と継承・発展

- 日本文化の伝統を正しく伝えとともに革新的な事業
- 次代を担う若者に対し、日本文化のすばらしさについて理解を促す取組

③: 日本文化の世界への発信と国際交流

- オリンピック史に残る大規模かつ創造的なイベント
- 新たな文化や多様な文化が融合・調和した日本の文化の魅力を世界に発信する取組
- 世界中の人々があらゆる人種や宗教を超えて、文化芸術を通じて参加・交流できる事業

コンセプト②: 次世代育成と新たな文化芸術の創造

コンセプト④: 全国展開によるあらゆる人の参加・交流と地域の活性化

②: 次世代育成と新たな文化芸術の創造

- 野心的・挑戦的・実験的取組であり、前例にない新たな芸術表現
- 若手の芸術家・キュレーター・アートディレクター、学生に参加・活躍の機会を与える取組
- 新作、初上演、初公演

④: 全国展開によるあらゆる人の参加・交流と地域の活性化

- 芸術展示、舞台芸術、音楽を見せるだけでなく、対話プログラムや実践型ワークショップなど、無料で参加できる事業
- 人種、性的指向、障がいなど、多様な背景を持つ人が文化芸術を通じて、参加・交流できる取組
- 地域社会の世代間、地域間を超えて、地域の様々な人々が連携共同し、地域の課題解決に向けた事業など、地域を盛り上げる取組

（出典：「東京 2020 文化オリンピックについて」東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会）

第2章

文化プログラムの事例・ ノウハウ集

- 地域の伝統工芸、地域の食を守る
- 地域食材を育て、味わって知る「郷土の味」
- 日本料理の基本 だしのとり方
- おいしいお茶の入れ方
- 保存会の協力のもと郷土芸能を伝承する
- 歌をつくる
- パラパラアニメーションをつくる
- 多文化共生
- とともに生きる
- 風呂敷包み
- 落語
- 地域の祭りを伝承する
- 郷土の宝を探し、誇りをもつ

【コラム】文化芸術基本法の改正

地域の伝統工芸、地域の食を守る

織り上げる楽しさ、地域の食を堪能

【時間数】【手織り】1回(9:30～12:00)

【実施形態】【手織り】実施主体は、PTA
サタコミ委員会 各学級1名
(外部講師による郷土の歴史、
文化に関わる学習)【講 師】【手織り】外部講師
(多摩織伝統工芸士)
【地域の食】担任教員

ねらい

地域の伝統文化を知り、守り育てていく
姿勢を育てる。【対 象】 小学1年生～6年生(希望者)
約100名

地域に脈々と根づいている伝統文化。伝統工芸士や地域文化の伝承者の力を借りて、子供たちに伝統文化を伝えていきます。

事前準備

- 織り機
- 太鼓

TIPS 事前準備のコツ

- ・ 外部講師と事前に打ち合わせする。

1 >>> ACTION 織物を織りあげる楽しさを体験

多摩地域には、伝統工芸の多摩織や伝統芸能の和太鼓などが、今も受け継がれています。

八王子市立 T 小学校では、月に 1 回、8 回にわたり「サタデーコミュニティ」を開催しています。

手織り、和太鼓、英語、合唱、スポーツ体験、パソコンなどの講座が開かれています。

手織りは子供たちに人気がある講座のひとつです。毎年受講している子供たちもいて、年々腕を磨いています。保護者も多数参加しています。

講師をつとめるのは、織物組合の多摩伝統工芸士で、伝統の技を子どもたちに伝授してくれます。たて糸と横糸を紡ぎながら、色あいがきれいなマフラーを仕上げていきます。手作りだけあって、風合いがやわらかい「世界にひとつだけのマフラーが出来上がります。

講座に 1 年生から 6 年生まで参加できるので、上級生が下級生を教えたり、サポートしたりしています。そうした異学年の学びあいもできます。

2 >>> ACTION 全学年で地域の食を学ぶ

T 小学校では、1 年生から 6 年生まで地域の農家の協力を得て、食についての授業を行っています。

1 年生はとうもろこし、2 年生はさつまいも、3 年生は大豆、4 年生はひょうたん、ゴーヤ、5 年生は稲、へちま、6 年生はじゃがいも、落花生を植えて、育て、料理して、食します。

3 年生の児童は、大豆を植え、収穫してから、みそと豆腐を作ります。近隣の豆腐の生産者に来てもらい、豆乳ににがりを入れて豆腐を作ります。みそは、「手前みそ」というように、おいしく出来上がりました。

5 年生の児童は、バケツに稲を植えて育て、脱穀、精米し、お米を炊き、みんなで「おにぎりパーティ」を開きました。

6 年生の児童は、じゃがいもを育て、給食に提供し、シチューとしていただきました。

このように、食材を育て、食べることにより、地域の食を大切にする気持ちが育っています。

活動例



▲見本のマフラーを見ながら織の手順を学習。



▲100年以上前の機織り機（高機）を使って布を織る子供たち。



▲機織り機を使ってたて糸と横糸を紡ぐ。

進め方 1

外部講師の指導のもとに進行する。

【手織り】

- ① 外部講師が手順や注意事項を説明する。
- ② 織り機を使って、マフラーを作る。

注意ポイント

技を必要とする手の込んだものは、体験としてとどめ、子供たちは簡易な機織り機を用いて実用的な織物を製作する。

活動のヒント

地域の伝統工芸士と事前に打ち合わせする。
保護者の協力を依頼する。

地域食材を育て、味わって知る「郷土の味」

「地域の野菜を育てよう」

時間数 5～6 時間

実施形態 学級ごとまたは学年ごと

講師 学級担任（主）

地域の生産者、地域の企業（漬物会社）、保護者がサポート

ねらい

地域の産業を知る。

対象 小学生

地域には、代々受け継がれている食材があります。

生産者や企業の人々の協力を得て、子どもたちが食材を育て、食することを通じて、「郷土の味」を守っていくことを学んでいきます。

事前準備

●大根の種

TIPS 事前準備のコツ

・大根の種を植え、育て、収穫し、調理し、食べるまでの一連の流れの中で、興味関心を継続させる。

1 >>> ACTION 教科等横断的な学び

東京の練馬には、まだまだ多くの畑が残っていて、練馬産の野菜もいろいろあります。中でも、「練馬大根」は、全国的によく知られたブランド野菜です。

練馬区の Y 小学校では、3 年生で、「地域で働く人々」（農業、工業、販売）について学んだ後、地域の農家に見学に行き、農業の仕事を学びます。

さらに、「練馬は何か有名なのか」について学習を发展させます。

子供たちは、練馬大根の種を植え、育て、収穫し、調理し、食べるまでの一連の流れを通じて、郷土が誇りをもって育ててきた産業や食を学びます。

まず 9 月になると、学校から歩いて 10 分くらいのところにある学校農園で大根の種をまきます。子供たちは、大根の種が小さいことに目を見はります。

次に種が発芽し、葉が出て、小さい葉が徐々に育つ様子を見つめます。毎日子供たちが水やりをすることはできないので、保護者が手伝うこともあります。

2 >>> ACTION 種まきから試食までの長い時間をかけた学び

12 月になると、グループに分かれて大根を収穫します。練馬大根は大きいので、子供はペアになって力を合わせて、大根を大地から抜きます。協働作業で収穫する喜びを味わいます。

学校に戻ってから、再度ペアになって大根を干し、適度に水分を抜きます。大根を干すと柔らかくなり、形が変わっていくことに、子供たちは驚きます。

年を越えて 1 月後半には、大根を切り、漬けこみます。地域の漬物会社の職人が、たるにきれいに並べる技を披露します。子供たちは、職人の技に目を見開きます。子供たちも、同じようにたるに並べます。

大根が漬かったら、ようやく食べることができします。

「種まきからたくあんを作り、試食するまでの流れは時間がかかりますが、子供たちは五感を駆使しながら学んでいます。」

担任の教員は手ごたえを感じています。

活動例



▲大根をきれいに並べる。



▲大根をていねいに育て、葉がきれいにそろおう。

▶収穫した大根を干す。



▶大根の漬け方について熱心に聞く子供たち。

進め方 1

- ① 野菜の種をまく。
- ② 芽が出てきたら、間引く。
- ③ 野菜を収穫する。
- ④ 野菜を調理する。

Check 注意ポイント

地域で守っていく食材について、子供たちに意識付ける。
地域の生産者、企業の協力を依頼する。

活動のヒント

地域の野菜の生産者、漬物会社と連携する。
また、保護者の協力を得て、大根の水やりや間引きなどを手伝っていただく。

日本料理の基本 だしのとり方

本物の味を舌で覚え、
味覚を育てる

時間数 「知識編」1時限 「実習編」1時限 実施形態 学級ごと

講師 外部講師(食品メーカー)

ねらい かつお節だしのとり方・活用法を理解する。本物の味を知る。

対象 中学生(事例では中学2年生)

日本料理の基本はうまみ。そして、うまみのもとほだしです。だしが吸い物、味噌汁、煮物、炊き合わせなどの味を決めます。しかし、だしをとらずに、化学調味料を使う家庭が増え、日本人の味覚が変化してきています。

事前準備

- 1 時限目
 - ・ 枯節、顆粒だし
- 2 時限目
 - ・ 枯節、荒節、混合削り節、昆布
 - ・ しょうゆ、砂糖、みりん、白ゴマ
 - ・ 生徒は、エプロン、三角巾を着用する。

TIPS 事前準備のコツ

- ・ かつお節だし、雑節、合わせだしなど数種類のだしを取り、試飲することにより、ちがいを理解する。
- ・ だしをベースに吸い物、味噌汁を作り、味を確認する。顆粒だしをベースにした味とのちがいを舌で覚える。
- ・ 吸い物に合うだし、味噌汁に合うだしを理解する。

1 ACTION
だしの本物の味を味わう

昭和のころは、台所にはだしのかぐわしい香りがたちのぼっていました。しかし、昨今はだしをとる家庭がめっきり減りました。

江東区立 D 中学校の家庭科の教員は「本物の味を体験させたい」とだしのとり方の授業を始めました。指導するのは、食品メーカーの外部講師。

荒節と枯節の製造工程やちがいなど、だしの基礎を説明した後、実習を行います。

実習では、かつお節だしをとることから始めます。おいしいかつお節だしをとるには、水の量に対し3%のかつお節を入れることがポイントです。手順は、

- ① 水が沸騰したら火を止め、かつお節を入れる。
- ② かきまぜずに1～2分待つ。
- ③ ガーゼやキッチンペーパーでこす。
- ④ こすとき、決して絞らない。

これで、一番だしが完成します。次に、合わせだし(荒節のだし、または枯節のだしと昆布だし)を作ります。

2 ACTION
だしの味を知り、和食に関心をもつ

かつお節だし、雑節だし、昆布だし、合わせだしを作った後、それぞれ試飲します。かつお節だしは、ほのかなやさしい味わい。雑節だしは濃くて、パンチのある味、合わせだしは、うま味の相乗効果により深味のある味わいです。

生徒たちは「おいしい!」と口を揃えます。だしの味を初めて経験する生徒もいます。

次に、かつお節だし、雑節だし、合わせだしにしょうゆや塩を加え、吸い物を作ります。同様に、味噌を加え、味噌汁を作ります。だしをベースにした吸い物、味噌汁は、香りがたち、ふくよかな味わいです。生徒たちは、何杯もおかわりしていました。

最後に、だしがらをフライパンで水分を飛ばしてから、調味料を加え、白ゴマで色どりをしたふりかけを作りました。ごはんのおともに最適です。

生徒は本物のだしの味を知り、食に関心を持ち、「食に関連する仕事をしたい」などの夢を描き始めています。

活動例

進め方 1

- ①【知識】だしについて
・ 荒節と枯節のちがい
(製造工程・カビ付けなど)



▲講師がデモンストレーション。

進め方 2

- ②それぞれのだしをとる。試飲
(荒節・枯節・雑節・昆布)
③【実習】合わせだしを作る。試飲
・ かつお節だし+昆布だし
④【実習】吸い物を作る。試飲
・ 枯節のだしにしょうゆや塩を入れ吸い物を作る。
⑤【実習】味噌汁を作る。試飲
⑥【実習】雑節(かつお節以外の節からとるだし)のだしをとる。試飲
⑦【実習】枯節のだしがらでふりかけを作る。

注意ポイント

おいしいだしをとるために、水の分量、かつおぶしの分量を正確に測る。
和食の基本のだしをとる。
枯節は発酵食品であることを伝える。



▲だしを試飲する。



▲だしに味噌を入れて、味噌汁を作る。



▲だしがらでふりかけを作る。

第1章 文化プログラムの概要

第2章 文化プログラムの事例集

第3章 発展型の文化プログラムの事例集

第4章 企画から実施までのワークフローと注意ポイント

第5章 2020年とその先に向けて

活動のヒント

食品メーカーの協力を得て、授業を進める。

東京都中央区日本橋室町 1-5-5
室町ちばぎん三井ビルディング 12F

団体 株式会社になべん 経営企画部

TEL 03-3241-0241

住所 〒103-0022

おいしいお茶の入れ方

お茶を入れて飲む習慣を生活にとりいれる

時間数 1時限

実施形態 学級ごと

講師 外部講師(お茶の会社)

ねらい

- ・おいしいお茶の入れ方を学び、お茶を飲む習慣を身につける。
- ・実際にお茶を入れ、入れ方による味の違いを確認する。

対象 小学生(事例では5年生)

ペットボトルの普及により、家庭でお茶を入れて飲む習慣が少なくなっています。急須や湯のみがない家庭もたくさんあります。しかし、お茶を入れて飲む習慣は、文化として残していきたいものです。また、日本茶はカテキンなど健康維持に役立つ成分が豊富に含まれ、かぜ予防、リラックス効果などさまざまな効用があります。

事前準備

- 急須、湯のみ
 - 茶葉見本トレイ、トレイ、冷水ポット、ザル、バケツ、ティースプーン、電気ポット、保温ポット
- ※児童は、エプロン、三角巾を着用する。

TIPS 事前準備のコツ

- ・進め方・役割分担・順番を明確にしておく。
- ・チーム全員が、だれが、何をするのかを理解する。

1 >>> ACTION 初めての体験に子供たちは大喜び

はじめに、お茶について簡単な講義をします。講義の内容は、以下の通りです。

- ①お茶とは何か
- ②お茶の成分と味の違いについて
- ③お茶をおいしく入れるポイントについて

次は、実際にお茶を入れる体験に移ります。

子供たちの多くは、茶器を持ったことがほとんどありません。そのため、カラの状態子供たちに急須を持たせ、予行演習をします。それだけで子供たちは大喜びです。

お茶をおいしく入れるには、次の4つのポイントを守ります。

- ・茶葉の量を正確に測る。
- ・湯量を正確に測る。
- ・お茶の種類に適した湯温で入れる。
- ・お茶の種類に適した抽出時間まで待つ。

ポイントを守り、自分でお茶を入れ、味わうことで、子供たちは達成感を感じるようです。

2 >>> ACTION お茶席のマナーも学ぶ

墨田区立H小学校では、食育の一環として「おいしいお茶の入れ方」の体験授業を行っています。

授業では、3人のチームをつくり、3回お茶を入れます。まず、お茶を入れる児童(茶の湯でいう「亭主」の役割)の順番を決めます。

亭主役の児童は、「客」のためにお茶を入れ、「お茶どうぞ」と言って客役の児童に勧めます。

客役の児童は、飲み終わったら「ごちそうさまでした」「おいしくいただきました」と亭主役の児童に挨拶(お礼)をします。このように、お茶席のマナーも同時に学ぶことができます。

またオプションとして、炒った米と緑茶を混ぜて玄米茶をつくり、煎茶と味比べをする場合もあります。子供たちは「おいしい!」と感激しています。お茶について、もう一步踏み込んだ内容も学びます。

教員は、「家庭にも伝えてほしい」と、家庭でお茶を入れる習慣が定着することを期待しています。

活動例



▲お茶の講義内容に耳を傾ける。



▲天秤ばかりを使い、茶葉の量を正確に測る。



▲湯のみにお茶を均等に注ぐ。



▲お茶を味わう。

Check 注意ポイント

- ・講師の説明は、簡潔に。
- ・体験が始まるとおもしろさのあまり自由に行動してしまう児童もいるので、講師の発言に注意喚起させるような合言葉を事前に決めておく。
- ・開始後短時間で、児童と講師の間に信頼関係（この人の話を聞くと、おもしろいことができそうという期待）をつくる。
- ・一人ひとりが体験に参加できるようにする。

進め方 1

- ① 3人1組のチームをつくり、お茶を入れる。
児童（茶の湯でいう「亭主」役）の順番を決める。
- ② お湯で2回お茶を入れる。
- ③ 水で1回お茶を入れ、お湯と水で入れた場合の味の違いを確認する。

- ④ 亭主役の児童は、チームのメンバー（茶の湯でいう「客」の役割）のためにお茶を入れる。入れたら「お茶どうぞ」と言って客役の児童に勧める。客役の児童は、飲み終わったら「ごちそうさまでした」「おいしくいただきました」と亭主役の児童に挨拶（お礼）をする。

※これを1ルーティンとして、役割分担を交代していく。

活動のヒント

団体 株式会社伊藤園 販売促進部

住所 〒151-8550

東京都渋谷区本町三丁目 47-10

TEL 03-5371-7137

保存会の協力のもと郷土芸能を伝承する

地域に伝わる和太鼓、お囃子

時間数 43 時間

実施形態 学年ごと

講師 金町葛西ばやし保存会

ねらい

地域の歴史や伝統文化を知り、「郷土愛」を育てる。

対象 小学 5 年生、6 年生

「葛西ばやし」は、東京都の無形文化財。葛飾区が掲げている「郷土愛の醸成」を実現するため、葛飾区立 H 小学校は、平成 18 年度から「葛西ばやし」の体験学習を行い、平成 28 年には、東京都の伝統文化推進校に指定されています。

事前準備

●篠笛、大胴、締太鼓など

TIPS 事前準備のコツ

・地域のお囃子について事前に学習しておく。

1 >>> ACTION 和のリズムを覚え、和の音を伝える

「葛西ばやし」は、葛飾あたりに古くから伝わり、江戸の祭礼囃子の源流となった郷土芸能です。

葛飾区立 H 小学校は、「金町葛西ばやし保存会」の協力と指導を得て、葛西ばやしの学習に取り組んでいます。現在は、5 年生と 6 年生が葛西ばやしを学んでいます。

5 年生の 3 学期に、囃子について学びます。6 年生は、年間 43 時間をかけて金町葛西ばやしの歴史や成り立ちを学んだ後、自分たちで学習計画や練習計画をたてて、練習します。1 学年 100 人近い児童全員が取り組みます。

葛西ばやしの授業では、太鼓、あたり鐘、篠笛、踊りのグループに分かれて、葛西ばやし保存会の方が直々に指導します。太鼓とあたり鐘の練習では、保存会の方の篠笛の演奏に合わせて、児童が太鼓を打ち、あたり鐘を鳴らします。

踊りのグループは、メロディに合わせて、扇子と手ぬぐいを使って踊る練習を繰り返します。

2 >>> ACTION 地域のイベントでも披露

葛西ばやしは、5 人で構成されます。大胴（太鼓 1 台）、締め太鼓（上下 2 台）、トンビ（篠笛 1 本）、あたり鐘（鉦 1 台）からなります。お囃子に合わせて、滑稽なしぐさで踊ります。5 人が力を合わせて取り組むので、チームの和が育まれます。

H 小学校では、次のように学習を教科等横断的に進めています。

- ①口伝で曲を覚える。
- ②正座をして、棒太鼓で締め太鼓の練習をする。
- ③お面を作る。

児童は練習の成果を、水元公園で開かれる菖蒲まつりや葛飾区の連合音楽会、地域の盆踊りなどで披露します。

3 月にはノウハウが詰まった「秘伝書」を 5 年生に引き継ぎ、児童集会や「6 年生を送る会」で発表し、中学校へと巣立っていきます。

保存会の方も、児童が誇りをもって稽古をしている姿を頼もしく感じています。

活動例



◀ 篠笛を吹く。



▲ 篠手ぬぐいのはちまきをしめ、扇子を使って踊る。



▲ 太鼓、締め太鼓をたたいて練習。

進め方 1

5年生

- ① 囃子を学ぶ。

注意ポイント

時間数が多いため、地域の菖蒲まつり等で発表する機会を設け、児童の意欲を持続させる。

進め方 2

6年生

- ① 地域の音を伝える
・ 葛西ばやしはどんなお囃子なのかを知る。
- ② 練習計画をたてる。
- ③ 葛西ばやしについて聞き取り調査をする。
- ④ 葛西ばやしの練習。
・ 篠笛、大胴、締め太鼓、鉦、踊り
・ 踊りのお面を作る。
- ⑤ 地域の菖蒲まつり等で発表する。
- ⑥ 葛西ばやしでわかったことを発表する。
- ⑦ 葛西ばやし学習発表会
- ⑧ 児童集会や「6年生を送る会」等で発表し、在校生に伝える。



◀ 第35回葛飾菖蒲まつり

活動のヒント

地域の文化の伝承に取り組んでいる保存会と事前に連絡を取り、年間を通した活動の計画や各活動における指導のねらいなどについて、十分打ち合わせを行う。

歌をつくる

世界でたったひとつの歌をつくる

時間数 2時限

実施形態 学級ごとまたは学年ごと

講師 音楽の教員または外部講師(シンガーソングライター)

ねらい 友達と協力し合って、歌をつくる。

対象 小学生、中学生

自分の思いをこめてつくった歌を歌うと、一種の感動を呼び起こします。テーマに沿って言葉をつむぎだし歌詞にする、歌詞に旋律をつけるといった一連の流れを共有し、子供たちは、共通の思い出を心の中に蓄積します。

事前準備

●模造紙

TIPS 事前準備のコツ

- ①学級の雰囲気、人数、男女比などを事前にヒアリングする。
- ②曲のテーマを運営側であらかじめイメージしておく(卒業、友達、感謝、未来、世界平和など)。
- ③歌詞づくりの元になる言葉出しを円滑に行うために、グループ分け(5～6人)をしておく。男女混合のほうが好ましい。
- ④ファシリテーター役を決めておく。

1 >>> ACTION 思い出をもとに言葉を紡ぎだす

歌には、人と人をつなぐ不思議な力があります。大人になったとき、小学生のときにはやっていた歌、中学生のときに口ずさんだ歌などが、その時の思い出とともによみがえってきます。

たとえば、東京 2020 大会のオリジナル・ソングをつくることを例にとってみましょう。

それぞれが、東京 2020 大会に対する思いを言葉にして模造紙に書きます。

すらすらと言葉を書きだす子供もいれば、中には答えのないことについて、自由に書くことに慣れていないため、手が動かない子供もいるでしょう。

その場合は、指導者が語りかけ、対話しながら、心のうちの思いを引き出します。

グループごとに、イメージした思いを発表し、共通した言葉やキーワードを見つけ出します。そして、言葉やキーワードをもとに歌詞をつくっていきます。

歌詞は、子供たちの思いの結晶です。

2 >>> ACTION 子供の隠れた才能を再発見

歌詞が完成したら、次は曲づくりです。子供がこれから曲をつくるのはむずかしいので、指導者が旋律やリズム・パターンを例示したり、主旋律の一部を作曲したりして、子供が旋律をつくれるようにします。

次はいよいよギターやピアノの演奏に合わせて、歌います。

作詞、作曲、歌うという一連の流れを通じて、子供たちは自分たちの思いを込めた歌を創りあげます。

歌づくりでは、日ごろあまり目立たない子供に文才があったり、すてきな旋律を思いついたりして、その隠された才能に驚かされることがあります。そしてクラスメイトから評価されるようになり、子供が自信を持って行動するようになることもあるそうです。

東京 2020 大会の応援ソングをつくることにより、大人になったときクラスメイトと協力して歌をつくった思い出もよみがえってくることでしょう。

活動例

進め方 1 (1 時限目)

- ① テーマを決めて、思いつく言葉を模造紙に書く。

テーマ例：

- ・学校の思い出
- ・学校 (クラス) のいいところ
- ・大きなテーマとしては、平和、未来の地球など
- ・未来の自分への手紙
- ・東京 2020 大会 など

- ② グループで意見をまとめ、発表する。
- ③ 言葉 (キーワード) をもとに歌詞をつくる。



▲キーワードを紙に書き出す。



▲キーワード

注意ポイント

- ・思いつく言葉を書けない

児童に対しては、指導者が問いかけて会話を交わし、言葉を引き出す。

- ・2 時限目は、1 ～ 2 週間置いた方がよい。

進め方 2 (2・3 時限目)

- ④ 歌詞に旋律をのせる。
- ⑤ 歌を歌う練習をする (リハーサル)。
- ⑥ 歌を歌う。



▲リハーサル。ギターに合わせて歌ってみる。



▲ピアノの演奏に合わせて合唱

活動のヒント

Bonvoyage Studio 代表
堤晋一

mail tsutsumi@bonvoyagestudio.com

パラパラアニメーションをつくる

豊かに発想して動物などが動く
アニメーションをつくる

時間数 2時限

実施形態 学級ごとまたは学年ごと

講師 外部講師(アニメーション作家)

ねらい

地域の産業を知り、パラパラアニメーションをつくる。

対象 小学生、中学生(事例では小学5年生)

アニメーションは、練馬区を代表する産業の一つです。練馬区には100余りのアニメ制作関連企業があり、数々のアニメーションが、練馬区から生まれました。子供たちは、区の産業を学びながら、独自の発想やひらめきを駆使して、アニメーションを作成します。

事前準備

- パラパラアニメーションを作成する場合
〈講師用〉トレース台、タップ(固定するもの)、
3つの穴がある紙=動画用紙
指導用書画カメラ
〈児童用〉紙、筆記用具

TIPS 事前準備のコツ

- ・地域コーディネーターが、学校と事前に打ち合わせを行い、授業内容や準備する機器類を確認する。

1 >>> ACTION
表現のしかたは十人十色、それぞれの個性が光る

特別講師の遊佐かずしげさんはNHK「みんなのうた」や「おじゃる丸」「タッチ」「うる星やつら」などの作品を手がける人気アニメーション作家。子供のとき、アニメーターが目の前でさらさらと絵を描いてくれて感動したそうです。その感動を同じように子供たちに伝えたいと考えています。

最初に遊佐さんが、人気アニメのキャラクターを描き、子供たちの関心を引きつけます。

次に、2枚の絵でアニメーションを動かします。事前に配布される紙には、尺取虫のイラストが描かれています。紙を二つ折りにして、イラストの上にかぶせ、虫のイラストをトレースしながら、虫が動く様子を描きます。2枚の絵をパラパラ動かすと、虫がもぞもぞと動くアニメーションに変化します。

虫が少しずつ動く様子を表現する子供もいれば、大胆に身体をくねらせながら動く様子を表現する子供、色の濃淡を変える子供もいます。まさに十人十色。それぞれの個性が光ります。

2 >>> ACTION
どれも個性にあふれた力作

2時限目は、4枚の紙に描いた絵を動かし、間に紙をはさみ、4枚で滑らかな動きのアニメーションをつくれます。題材は鳥です。鳥の羽を上下に動かして、鳥が元気よく羽ばたく様子をアニメーションに表します。

鳥のアニメーションも、優雅に空を舞う鳥、目をキョロキョロさせる鳥など、千差万別です。子供たちのユニークな発想があふれています。

次は、いよいよオリジナルのアニメーションをつくれます。遊佐さんは「手のひら、恐竜、うさぎ、靴、椅子など、動かせるのならなんでもいいよ。」と子供たちがイメージしやすいように例をあげます。

ノシノシと歩く恐竜、ピョンピョン動くうさぎ、手のひらがクルクル動く様子など、独自のアニメーションが完成しました。

「細かくコマ割りしていてすごい」「声優、アニメをつくる人などいろいろな人が関わっていることがわかった」子供の感動が、自分自身のキャリアについて考えるきっかけになるかもしれません。

活動例



▲特別講師がサラサラとアニメのキャラクターをかく。



▲2枚の紙を動かして、パラパラアニメーションになっているかを確認する。

進め方 1 (1 時限目)

- ① 地域のアニメ産業について
- ② 2枚の紙で簡単なアニメーションをつくる。
虫がかかれたサンプルの絵をトレースし、虫が動くようにかき、パラパラアニメーションを作成する。
- ③ みんなで見合う。



▲イラストをかく。



▲鳥が羽ばたく様子のアニメーション

進め方 2 (2 時限目)

- ④ 中割り
間に紙をはさみ、4枚で滑らかな動きのアニメーションをつくる。鳥が羽ばたく様子をアニメーションで表現する。
- ⑤ オリジナルのパラパラアニメーションを作る。
・1枚目に絵をかく。
・1枚目に紙を重ねてトレースし、1枚目の絵が動くようにかく。

CHECK 注意ポイント

教員は、児童のユニークな発想やよくできている点を見付け、価値付けする。

活動のヒント

団体 練馬区産業経済部商工観光課アニメ産業振興係
住所 〒176-8501
東京都練馬区豊玉北 6-12-1

TEL 03-5984-1276
※練馬区産業経済部商工観光課が、「アニメ産業と教育の連携事業」を小中学校での「アニメの授業」として実施しています。

多文化共生

つながる日本語・つながる命・
つながる地域

時間数 総合的な学習の時間(40時間)など合計70時間

実施形態 学級ごと

講師 学級担任

ねらい

日本文化への誇りを高める。

対象 小学6年生

豊田市のN小学校では、全校児童の約7割がブラジル人を中心とする外国籍の児童です。ブラジル人が多数派という環境の中で、学習規律を確立し、日本語指導に力を入れています。また、子供たち一人ひとりが夢を持ち、お互いの文化を尊重できるようになってきています。

事前準備

- 「コミュニケーションボード」のワークシート

TIPS 事前準備のコツ

- ・学年別の年間指導計画を作成し、学校をあげて実践できるように準備する。年間指導計画を作成し、1年生～5年生に学んだことが継続してスパイラル学習ができるようにする。

1 >>> ACTION
伝統文化と多文化を知る

本年度、6年生は、「防災」をテーマに取り組んでいます。修学旅行では、ただ単に日本文化を代表する国宝・東大寺を見学するだけではなく、地震や火災からどのようにして、東大寺を守っているのかを学習しました。

事前に、日本の伝統文化の素晴らしさや歴史的背景などについて十分に調べ学習をしました。子供たちが国宝を守ることの意味について知り、当日の講義について興味を持ち、深く理解できるように配慮しました。

当日は、全員が長時間に及ぶ講義を真剣に興味をもって聞くことができました。

また、日本とブラジルの文化だけではなく、いろいろな国の文化に興味をもってほしいという願いから、毎年6年生を対象に、県内の犬山市にある野外民族博物館の見学会を実施しています。

こうした活動を通じて子供たちは、いろいろな国の文化に興味を持ち、その良さを受け入れています。

2 >>> ACTION
多文化共生を地域に広げる

N小学校では、外国籍の子供の学習を支援するために地域学校共同本部がボランティアを募り、放課後教室「パラソル」を実施しています。他にもさまざまなボランティアに支えられ、学校生活を送っています。

そんな中、防災学習で、近くに活断層があり地震が発生したら大変危険なことを知りました。また、災害時に豊田市が出している「コミュニケーションボード」が外国籍の人と話すのに役立つことに気づきました。

子供たちは、お世話になっている地域のボランティアに恩返しをしたいと考え、コミュニケーションボードを地域に広めることを思いつきました。

子供たちは、地域にチラシを回覧したり、地域の掲示板にポスターを貼ったり、地域の区民会館に配布用のコミュニケーションボードを設置したりしました。学校内だけではなく、地域における多文化共生という意識も芽生えてきました。

活動例



▲修学旅行 東大寺での防災学習



▲6年生 野外民族博物館の見学



▲全校 コミュニケーションボードを使った会話練習



▲地域にコミュニケーションボードの配付のためのブースを設置

進め方 1

① つながる日本語 (18 時間)

- (1) 学校のをさを宣伝する文章を書こう！
- (2) 地域の史跡を訪ねて、地元の誇りを見つけよう！
- (3) 日本の文化のすばらしさを見つけよう！
- (4) 和太鼓を演奏しよう。
- (5) ポルトガル語の歌を歌ってみよう。
- (6) 和の文化を写真で表現しよう。

② つながる命 (10 時間)

- (1) 文化を教え合おう。
- (2) 野外民族博物館に行ってみよう！
- (3) みんなの夢をつなげて掲示物を作ろう！
- (4) 文化の違いを尊重し、高め合おう！

進め方 2

③ つながる地域 (12 時間)

- (1) 学校地域共働本部のボランティアの話を聞こう。
- (2) 戦争の原因を知り、平和に必要な力を学ぼう！
- (3) コミュニケーションボードを使って会話しよう。
- (4) コミュニケーションボードを地域に広めよう。
- (5) 夢をかなえた地球人から学ぼう！

Check 注意ポイント

学習規律を重視しながら事前指導を十分に行う。

活動のヒント

修学旅行では、東大寺の担当者と事前に十分な打ち合わせをする。

防災学習では、学校公開日に保護者と一緒に体験できるような防災学習を全学年で実施し、それを毎年継続して、できるように計画する。

外国人の保護者にも興味を持ってもらえるように、震災の写真パネルや防災グッズなどの掲示物にもポルトガル語の訳をつける。

ともに生きる

高齢者との交流から共生を知る

時間数 4年生 24時間(4月～7月) 5年生 12時間

実施形態 学年ごと

講師 学級担任(主)

福祉施設の職員、地域包括支援センター

ねらい

共生社会をめざし、自分の生き方について考える力を養う。

対象 小学生(小学4年生、5年生)

東京 2020 大会の基本コンセプトに、「多様性と調和」が掲げられています。年齢や障がいの有無に関わらず、お互いに尊重し合い、ともに支え合うことの大切さについて、体験を通して学びます。

事前準備

- 高齢者施設が、高齢者と子供がコミュニケーションするための道具(将棋、カルタなど)を用意する。

TIPS 事前準備のコツ

- ・ 特別養護老人ホーム、地域包括支援センターの職員と事前に打ち合わせする。
- ・ 高齢者施設の概要について、事前に学習する。

1

》ACTION

介護される立場を体験し、相手を思いやる

八王子市には、特別養護老人ホームなど、高齢者のための施設が多数あり、高齢者は自然に囲まれた環境の中で生活しています。

八王子市立 T 小学校では、年間 70 時間の総合的な学習の時間で高齢者や障がい者との共生を学ぶ授業を行っています。年齢や障がいの有無に関係なく、相手を受け入れ、ともに生きていくことを理解してほしい—これがこの授業を設けたきっかけです。

4 年生では、まず特別養護老人ホームの職員からホームの概要や認知症について話を聞きます。その後、ホームに出向き、介護食を食べたり、車いすに乗ったりして、介護される立場を体験します。

また子供たちは、障害者との交流を通じて、子供たちは障がい者の願いについて考えるようになり、「障がいもひとつの個性である」ことを学びます。

さらに、段差や階段など街の中にあるさまざまなバリアを整備することが、社会のためになることを知ります。

2

》ACTION

高齢者の身体の動きを疑似体験

5 年生は、相手意識に基づく交流活動を中心に授業を展開します。

まず、身体に重りをつけて軽快に動けないようにしたり、視覚を狭くしたりして、高齢者の身体の動きを疑似体験してみます。子供たちは体験を通じて、高齢者がさまざまな障害を抱えていることを実感し、気を遣わなければいけない大人がいることを知り、自然と相手意識がめばえてきます。

また、高齢者との交流イベントの企画→準備→実施という一連の作業を子供たちが協働して行います。子供たちは、高齢者からあやとり、将棋、お手玉などを教えてもらい、高齢者とのコミュニケーションのしかた、介護のしかたを学んでいきます。

最後に、一連の活動を振り返り、高齢者福祉について自分の考えをまとめ、クラスメイトと考えを交換します。

活動を通して、子供たちは、高齢者や障害者と共に生きていくことを考えるようになります。

活動例



▲高齢者とあやとりをして遊ぶ。



▲高齢者と将棋を打つ。



▲高齢者とカルタをして遊ぶ。



▲高齢者とハイタッチして、楽しさを分かち合う。

進め方 1

● 4年生

【課題の設定】

- ① 特別養護老人ホームがどのような施設なのか、利用者にはどのような方がいるのかを施設職員から話を聞く。
- ② 特別養護老人ホームでの介護の様子について調べ、計画をたてる。

【情報の収集・整理・分析】

- ③ 施設職員から身体に障がいのある方とのコミュニケーションのしかたや介護するときの注意点を聞く。
- ④ 介護の体験 (車いす、介護食)

【まとめ・表現】

- ⑤ 体験したことをレポートにまとめる。
- ⑥ ポスターを使って体験したことを発表する。
- ⑦ 活動を振り返り、バリアをどのように取り除くか、自分でできることを考え、まとめる。
(街の中で、家庭で、学校で…など)
- ⑧ 考えを交流する。

進め方 2

● 5年生

【課題の設定】

- ① 地域包括支援センターの職員から地域の高齢者の状況を聞く。
- ② 身体の状態など高齢者の疑似体験をする。
(関節の動き、聴覚、視覚)
- ③ 地域の高齢者との交流についての課題を設定する。

【情報の収集・整理・分析】

- ④ 特別養護老人ホームの職員から高齢者とのコミュニケーションのしかた、介護の注意点を聞く。
- ⑤ 交流イベントの内容を考え、話し合う。
- ⑥ 交流イベントを準備する。
- ⑦ 交流イベントを実施する。

【まとめ・表現】

- ⑧ 活動を振り返り、高齢者福祉について自分の考えをまとめる。
考えを交流する。

風呂敷包み

いろいろな形のものを包めるすぐれもの

時間数 2時限

実施形態 学級ごとまたは学年ごと

講師 外部講師(例：日本風呂敷協会)+アシスタント 2名

※児童の人数により変化

ねらい

日本の伝統文化を知る。

対象

小学生(事例では小学3年生)

昨今は風呂敷のない家庭も多くなってきたようですが、風呂敷が1枚あれば、急に荷物が増えたときでも安心です。友達に贈り物をプレゼントするときも、風呂敷に包んで渡すと、大切な気持ちが伝わります。

事前準備

- 人数分の風呂敷と包むものを用意しておく。

TIPS 事前準備のコツ

- ・風呂敷または紐などを使って真結びの手順を一通り指導しておく。
- ・児童があきないように一方的に伝えるのではなく、クイズや質問をする、クラスの代表数名に手伝ってもらい、包みを体験してもらうなど双方向でやりとりをするような形で進行する。

1 >>> ACTION 何でも包める風呂敷の魅力を新発見

江戸時代、江戸っ子は銭湯に行くとき、風呂敷で衣類をくるみ持ち運んでいました。火事のときも、家の荷物を包んで逃げました。江戸っ子にとって、風呂敷は生活の中に根づいていました。

しかし200年あまりたった今、私たちの生活から風呂敷が消えつつあります。大人ですら、きれいな結びができる人が少なくなりました。

中央区立A小学校の担任の教員は、「生活の中の日本文化を子供たちに学ばせたい」と思い立ち、地域理解の一環として、風呂敷包みの授業を行うことを決めました。

指導するのは、日本風呂敷協会の講師です。

まず、「風呂敷の中身は何?」とクイズを出し、子供たちの関心を引きつけ、アイスブレイクを図ります。

子供たちは「スイカ!」「サッカーボール!」などと答えます。「答えは…」、風呂敷をほどくと、答えのものが現れました。

2 >>> ACTION 1枚の布が大活躍

次は、いよいよ真結びの練習です。最初は風呂敷を結べなかった子供たちも、何回かやってみると、だんだんと結べるようになります。

風呂敷でいろいろなものを包めるようになり、子供たちは新鮮な驚きを示します。お弁当箱、本、かさ、衣類などをたった1枚の布で包むと、変幻自在に形が変わります。「いろいろなものを包めるようになってうれしい。親にも教えてあげよう」子供たちの声が弾みます。

女子は、いろいろなものを包めることに関心を持ち、男子は大きなものを背負って運べることに驚いていました。

また風呂敷は、環境にやさしいのが特長です。スーパーのレジ袋、デパートの紙袋などを使わずに、風呂敷でバッグを作って持ち帰れば、ゴミを減らすことができます。

日本文化の再発見だけでなく、エコの視点からも風呂敷を見直すきっかけにもなりました。

活動例



▲クイズでアイスブレイクを図る。



▲真剣に真結びの練習。



▲ボトルを風呂敷で包むと、こんなにおしゃれに変身。



▲お弁当箱やペットボトルなどを風呂敷で包む。
(© 宮井株式会社)

進め方 1

① クイズ

風呂敷に包まれたものを見せ、何が包まれて
いるかをあてる。

② 実習

真結びの結び方を練習する。

③ 風呂敷包みで楽しさが広がる。

CHECK 注意ポイント

クイズを出すなど、最初にアイスブレイク
を図る。

結び方を実習するときは、担任の教員とア
シスタントがフォローする。

活動のヒント

団 体 日本風呂敷協会 東京支部
住 所 〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢
町 7-2 森本ビル 1F
TEL 03-3661-1120
Mail tokyo@japan-furoshiki.jp

団 体 日本風呂敷協会京都本部
住 所 京都府京都市中京区室町通六角下ル鯉山
町 510 宮井京都ビル 2F
TEL 075-221-0389

落語

人前で臆せず
話す力を磨く

時間数 6時限(2時限×3回) 実施形態 学級ごと

講師 外部講師(プロの落語家)

ねらい

日本の伝統文化を通じ、人前で話す力を育てる。

対象 小学生(事例では小学6年生)

落語は、江戸時代に始まり現在まで伝承されている伝統芸能。噺の最後に「オチ」がつくのが特徴です。落語家は噺をおもしろおかしく展開し、聞き手は心から笑い、そこからコミュニケーションが生まれます。

事前準備

- 高座用の座布団
- 太鼓
- 各自が、扇子と手ぬぐいを用意する。

TIPS 事前準備のコツ

- ・ プロの落語家と事前に打ち合わせ、クラスの状態などを伝えておく。

1 >>> ACTION
落語の基礎を楽しく学ぶ

中央区立 A 小学校では、6年生を対象に「落語教室」を行っています。目的は、日本の伝統文化を知るためだけではなく、人前で臆せず話す力を身につけることです。

第1回目の授業は、プロの落語家の三遊亭遊吉さんが、落語の基本について説明しました。

落語独特の寄席文字は、客が隙間なく入るようにと縁起をかつぎ、文字を隙間なく書くことなど落語についての基礎知識を伝えます。

寄席を開場するとき「ドンドンドンと来い」と聞こえるようにたたく一番太鼓、開演前にたたく二番太鼓、終演時に「出てけ出てけ出てけ」と聞こえるようにたたく追い出し太鼓のたたき方を児童とともに実演しました。

また三遊亭遊吉さんは、手ぬぐいの折り方、お辞儀のしかたなどをわかりやすく説明し、「おもしろいときは声を出して笑うように」と子供たちにコメントしました。

2 >>> ACTION
オチがつき、笑いを誘う

授業では、クラスの男子児童が、前座をつとめました。ユーモアたっぷりに噺が展開し、子供たちも楽しみながらストーリーを追います。オチもつき、噺は成功。一斉に拍手がわき起こりました。

次に、いよいよ三遊亭遊吉さんの登場です。一人何役もこなし、扇子や手ぬぐいを使って、身振り手振りを加えながら、噺が進みます。オチで締めくくり、教室内は笑いに包まれました。

第2回目、第3回目の授業では、子供たちが小噺をオリジナルで創作したり、既存の小噺の中から好きなものを選んだりして、みんなの前で噺を披露します。「大きな声で、おもしろおかしく話してごらん。噺をそのまま覚えて話すのではなく、自分でアレンジしても大丈夫」三遊亭遊吉さんは子供たちにアドバイスします。

「落語教室」は、人前で話す力が向上するだけでなく、学級全体の雰囲気が明るくなる効果もあります。

活動例



▲寄席文字は文字の隙間が狭まっている。



▲「ドーン、ドーン、どんと来い、どんと来い」開場のときたたき、客を呼び込む一番太鼓を練習する。



▲手ぬぐいの折り方を説明する三遊亭遊吉さん。



▲前座をつとめる児童が、小噺を披露。

進め方 1

① 第1回目

- 【基礎知識】落語とは 2時間
・プロの落語家による説明と噺

進め方 2

② 第2回目

③ 第3回目

- 【実習】2時限×2回
・児童の落語の発表

活動のヒント

プロの落語家に協力を依頼する。

地域の祭りを伝承する

先人が培ってきた心、
知恵の蓄積を伝承する

時間数 5時限

実施形態 学年ごと

講師 プロの民謡歌手、地域の農家の方

ねらい

郷土の文化を知り、伝承する。

対象

小学生(事例では小学3～4年生)

ハロウィーンやクリスマスなどの行事が日本でも定着し、イベントとしての祭りが盛り上がりを見せています。しかし、日本の伝統的な祭りや神事などは農耕文化に根ざしています。先人が培ってきた心、知恵の蓄積を伝承していく学習が続けられています。

事前準備

- 田植え歌と田植え踊りを学ぶとき、児童は体操着を着用する。

TIPS 事前準備のコツ

- ・ 地域の祭り、地域に伝わる歌、踊りについて、保護者、親戚などについてヒアリングする。
- ・ 民謡に歌われている歌詞の意味を事前に学ぶ。

1

ACTION

民謡や田植え踊りを地域の人に学ぶ

長野県栄村は、長野県の北東部に位置し、山に囲まれた日本でも有数の豪雪地帯です。近くには千曲川が流れ、苗場山がそびえています。

栄村のS小学校では、ふるさとについて学ぶ「ふるさと学習」に力を入れています。

授業の前に、子供たちは、保護者や地域の人に地域の祭りや行事の歴史や意味についてヒアリングしたり、インターネットで情報を収集したりして、事前に知識を得ておきます。

いよいよ実践―。田植え歌と田植えの踊りを学びます。地域の農家の方が田植えのときの衣装と山笠を身にまとい、田植えの踊りを指導します。子供たちは、地域の方の振り付けに合わせて踊ります。

また、「ふるさと学習」として民謡もとり入れています。民謡は、山や川などの自然の風景、農村での生活を歌に託し、代々受け継がれてきました。

東京在住で栄村出身のプロの民謡歌手が、独特の節回しや基本的な民謡の歌い方を指導しています。

2

ACTION

学校だけでなく地域で伝統文化を学ぶ

民謡歌手は「もっと大きく口をあけて」「姿勢を正して」などと指導し、子供たちはだんだんと民謡の節回しを覚えていきます。そして、民謡の練習の成果をみんなの前で発表します。

「さいとり舞」は、栄村に伝わる伝統的な舞です。S小学校では、子供たちは夏休みに舞を練習し、秋祭りのときに奉納されます。

このように学校で伝統文化を学ぶことにより、子供たちは、地域の文化を伝承していこうという気持ちが強くなります。

栄村では、学校の授業以外に各地区で祭りや行事に触れる機会があります。栄村にはいろいろなところに道祖神があり、神々が宿っています。また、天神講(菅原道真の命日に行われる祭りで、子供の健やかな成長と学業成就を願う。)、どんど焼き(無病息災を祈る行事)など、さまざまな祭りが催されています。子供たちは、自然に祭りや行事に接し、慣れ親しんでいます。

活動例

進め方 1

① 祭りについての調べ学習 (2 時限)

地域の祭りについて、保護者や地域の人にヒアリングする。



▲プロの民謡歌手が指導。

進め方 2

② 民謡を学ぶ (4 時限)

プロの民謡歌手による指導

③ 田植え歌、田植えの踊り (5 時限)

地域の方による指導

④ さいとり舞

夏休みに練習する。



▲地域の方が田植え歌を指導。



▲さいとり舞の稽古に励む。

CHECK 注意ポイント

地域の方の協力を得て、進める。

第1章 文化プログラムの概要

第2章 文化プログラムの事例集

第3章 発展型の文化プログラムの事例集

第4章 企画から実施までのワークフローと注意ポイント

第5章 2020年とその先に向けて

活動のヒント

地域の伝統行事を伝承するために活動している団体や地域の人々と連携する。

郷土の宝を探し、誇りをもつ

郷土の宝を外国人にも伝え、インターネットから広く発信

【時間数】 週3時限×4ヵ月 48時限 【実施形態】 学級ごと、学年ごと

【講 師】 学級担任

ねらい

郷土の宝を発信する。

対 象 小学生(事例では小学6年生)

長野県東筑摩郡山形村は、道祖神とそばの里としてよく知られています。しかし、「山形県にある村？」と勘違いされることも多く、もっと山形村のことを知ってほしい。山形村立Y小学校の児童はそう願っています。

事前準備

- アンケート用紙
- カメラ

TIPS 事前準備のコツ

- ・ 保護者や親せき、地域の人に「山形村の宝」についてヒアリングする。

1 ACTION 村を現地調査して新たな発見

「山形村の宝を探そう」というテーマで、子供たちは、5人編成の班に分かれて、村にフィールドワークに出かけます。青空の向こうに北アルプスの山々が連なっているのが見えます。村には清水寺などの古刹や古墳が点在しています。自然が豊かなことばかりでなく、古い歴史が刻まれていることを子供たちは理解します。

近くの寺などを訪ね、住職から寺の歴史や昔の人々の暮らしなどの説明を聞きます。

また、子供たちは名産品のそばを食べ、そばの実からそばになるまでの工程を学びます。

そして、「山形村の宝」をポスターに描いていきます。フィールドワークで撮影した写真に文章を添えて、ポスターに仕立て上げます。

次に、ポスターセッションを行い、「山形村の宝」について調査したことを発表します。ポスターセッションでは、発表者は調べたい理由、事前調査、現地調査に分けて説明します。

2 ACTION 外国人観光客と交流を深める

東京に修学旅行にでかけたとき、子供たちは上野公園で山形村の宝のパンフレットを見せながら、アンケート調査を行いました。事前に、ALT（外国語指導助手）がチェックした英語の質問を外国人観光客に投げかけました。

「山形村って知っていますか？」と外国人観光客に質問したところ、残念ながら知りませんでしたが、山形村の魅力を伝えることができました。

次に子供たちが取り組んでいるのは、AR^{*2}（拡張現実）アプリの開発です。AR技術を使い、山形村の地図にさまざまな情報を付け加え、目的別に検索でき、村の情報が一目瞭然にわかるようにしました。アプリはインターネットからダウンロードできます。

子供たちは、村の宝を知ることから始まり、インターネットからの情報発信を体験しています。

実践を通じて、資質・能力を育成することが大切です。

活動例



▲山形村の宝調査
一寺の住職から寺の歴史などの説明を聞く。



▲ポスターセッションで発表する。

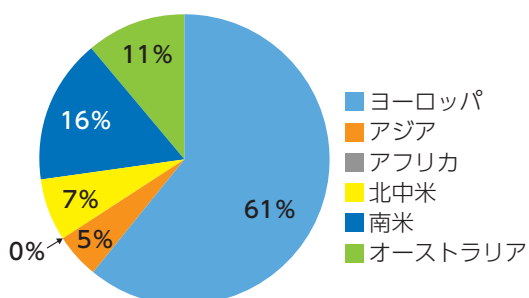


▲外国人観光客にアンケート調査。

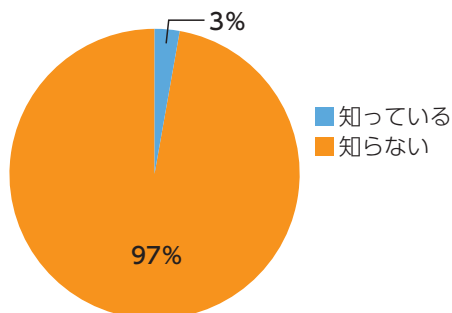


▲AR 大作戦。AR を駆使したアプリを開発。

(注 2) AR
現実に見聞きできる情報に別の情報を加え、
現実を「拡張」して表現する技術。



▲図表 2 アンケート調査—外国人観光客の
出身国「どこから来られましたか。」



▲図表 3 アンケート調査
—「山形村を知っていますか。」

進め方 1

- ① 調査内容についての説明 (1 学期)
- ② 山形村の宝について調べよう。(1 学期)
↓
班に分かれてフィールドワーク
- ③ ポスターセッション (1 学期)
山形村の宝について調べた結果を発表する。

進め方 2

- ④ 山形村を知っているかをアンケート調査 (2 学期)
山形村の宝についてパンフレットを作成し、
パンフレットを見せながら、フィールドでア
ンケート調査する。
- ⑤ アプリを作成する。(2 学期)

活動のヒント

地域の開発会社に AR アプリの開発の方法、手順などを指導していただく。

【コラム】文化芸術基本法の改正

総合的に文化芸術の推進を図る

2017年6月、通常国会において文化芸術振興基本法が改正されました。背景には、少子高齢化、グローバル化の進展により、社会の状況が大きく変化する中で、文化芸術が、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業の振興など幅広い分野と連携し、総合的に文化芸術の施策を展開する必要に迫られていることが挙げられます。

●文化芸術振興基本法改正の趣旨

1. 文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策を法律の範囲に取り込む。
2. 文化芸術により生み出されるさまざまな価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用する。

●改訂の概要

1. 法律の題名

「文化芸術振興基本法」から「文化芸術基本法」に改められました。

2. 総則

基本理念が以下のように改められました。

- ①「年齢、障害の有無又は経済的な状況」にかかわらず等しく文化芸術の観賞等ができる環境の整備
- ②我が国及び「世界」において文化芸術活動が活発に行われる環境を醸成
- ③児童生徒に対する文化芸術に関する教育の重要性
- ④観光、街づくり、国際交流などの各関連分野における施策との有機的な連携

3. 文化芸術推進基本計画等

文化芸術施策を推進するため、「文化芸術推進基本計画」を定めるとともに、地方自治体では、「地方文化芸術推進基本計画」を定めるよう努めるもの（努力義務）としました。

4. 基本的施策

- ①伝統芸能の例示に「組踊」を追加する。必要な施策の例示に「物品の保存」、「展示」、「知識及び技能の継承」、「芸術祭の開催」などへの支援を追加。
- ②生活文化の例示に「食文化」を追加するとともに、生活文化の振興を図る。
- ③各地域の文化芸術の振興を通じた地域の振興を図ることとし、必要な施策の例示に「芸術祭への支援」を追加。
- ④芸術家等の養成及び確保に関する必要な施策の例示に国内外における「教育訓練等の人材育成への支援」を追加。

5. 文化芸術の推進に係る体制の整備

文化芸術施策を推進するため、「文化芸術推進会議」を設け、関係行政機関相互の連絡調整を図ります。

●その他

文化芸術施策を総合的に推進するため、文化庁の機能の拡充等について検討し、その結果に基づいて必要な措置を講じる。

第3章

発展型の文化プログラムの事例・ノウハウ集

- 「よみきかせ」と「おしばい」を味わう
 - 楽描（らくがき）
 - シナリオライティング
 - 感性を働かせて、身体でつくる
 - 草木染めと日本の色彩
 - 手作り新聞・ルポの発信
 - 特別支援学級で学ぶ共生
- 【コラム】 まちごと美術館ことこと
- 【コラム】 被災者の心を支える「日田祇園祭」
- 【コラム】 水と土の芸術祭
- 【コラム】 地域アーツカウンシルの活動

「よみきかせ」と「おしばい」を味わう

「よみしばい」

時間数 1～2時間

実施形態 学級ごとまたは学年ごと

講師 外部講師

ねらい

世界の名作に触れ、異文化に親しむ。

対象

小学生、中学生

「よみしばい」とは、「よみきかせ」の気軽さと「おしばい」の迫力を味わえる演劇。

子供たちは俳優が間近で語りかける言葉からシーンを想像し、物語の世界に入っていきます。オリンピック・パラリンピックにちなみ、世界の国々の名作から異文化に思いを馳せ、文学の言葉に親しむことができます。

事前準備

- よみしばいの作品に出てくる小道具
(外部講師が用意する。)

TIPS 事前準備のコツ

- ・ 世界の名作の中から子供たちがよく知っていて、楽しめそうな物語を選ぶ。
- ・ 外部講師との事前打ち合わせを入念に行う。
- ・ 学級の状況、学級内の人間関係を事前に情報を提供する。
- ・ 例えば身体表現ができるようにする、声を出せるようにするなど、教員のねらいを外部講師に知らせる。

1 >>> ACTION
よみしばいを見て、物語の世界を味わう

授業の前に、世界の名作の中から子供たちが楽しめそうな物語を選びます。アラビアンナイト、星の王子さま、西遊記など子供たちがよく知っている物語であれば、物語の世界に入りやすく、その物語から異文化を知るきっかけになります。

まずは、外部講師である俳優の演技に集中し、よみしばいのストーリーを追います。俳優たちは、子供たちに語りかけながら、身体をフルに動かして演技をします。

子供たちは、俳優たちの迫真の演技に引き込まれ、物語の世界に入りこみ、想像力を広げ、物語の展開を読み解こうとします。

また、よみしばいを見るとき、単に観客として受け身で見るのではなく、拍手をしたり、声を出したりして、演じている俳優を応援します。能動的によみしばいに参加することが大切です。

そうすることにより、身体で表現すること、思い切り声を出すことを体験します。

2 >>> ACTION
ストーリーの歴史的な背景を学ぶ

よみしばいを見た後、エンディングの後のストーリーがどのように展開するかなど、子供たち自身でエピローグのストーリーを考えるようにします。

例えば、子供たちは主人公が新たな旅にでて冒険するとか、危険な事件に巻き込まれても、苦境を乗り越えるなど、オリジナルのストーリーを思い描きます。

そうして想像力を働かせ、作品に対する思いを深めることが重要です。

また、教員や外部講師が作品の時代背景、舞台になった国の歴史、社会的な状況などについて説明します。

特に海外の作品を扱うときは、時代背景を説明すると、作品を通して歴史や文化への理解がますます深まります。さらに、主人公の生き方や行動について共感しやすくなります。

また、作品に登場する嵐のシーンや風によって舞うシーンなどを身体で表現してみる、嵐や風などを実感するなど、五感を使うことも大切です。

活動例

進め方 1

① 事前ワークショップ

小学生 20分 中学生 25分

芝居に参加できるように、例えば作品に出てくるシーン（嵐など）を身体で表現してみる。中学生の場合は、作品について事前に学んでおく。

② よみしばいを見る 25分



▲『よだかの星』(2014年)



▲『注文の多い料理店』(2015年)

進め方 2

① よみしばいを見る 25分

② 事後ワークショップ

小学生 20分 中学生 25分

ストーリーの流れをつかんだうえで、作品のその後について想像する。

中学生の場合は、作品の背景について学ぶ。



▲『星の王子さま』(2014年)

チェックポイント

●時間配分

よみしばいと事前または事後のワークショップの時間配分に留意する。

●つかみ

最初の場づくりが重要。例えば、あいさつを演劇で表現し、アイスブレイクする。

●全員が参加意識をもつことができるよう、全員に目配りする。

●児童・生徒の個々の

いいところを発見し、ほめる。

児童・生徒はほめられることにより、自己肯定感を高めることができる。

教員は、ほめるタイミングに注意する。

活動のヒント

団体 たちかわ創造舎

TEL 042-595-6347

URL info@tachikawa-sozosha.jp

住所 〒190-0013 東京都立川市富士見町6-46-1
(旧多摩川小学校)

楽描(らくがき)

ちぎった形に命を吹き込む

時間数 1～2時間

実施形態 学級ごと、学年ごと

講師 外部講師

ねらい

子供たちの創造力を育成する。

対象

小学生、中学生

紙をちぎるのは簡単そうですが、自分で思ったような形になりません。しかし、子供たちは講師とマンツーマンでやり取りしながら、作品を仕上げていきます。動物などの作品は命を吹き込まれ、今にも動き出しそうな躍動感に満ちています。

事前準備

- 紙
- 作品を飾るためのフレーム

TIPS 事前準備のコツ

通常の作品制作と異なり、最終の仕上がりを想定していません。何が出来るかを素直に楽しむ気持ちがあれば大丈夫です。

1

》ACTION

紙をちぎって、命みなぎる動物が完成

授業は紙をちぎることから始まります。事前に用意しておいた紙を選ぶときのポイントは、自分の好みの色を選ぶことです。

ちぎるときは、紙から大きな、フシギな形をひとつちぎることを心がけます。

ちぎり方のコツは、針仕事のように、押さえる手とちぎる手を交互に進め、ちぎる場所に合わせて手も動かします。

小学校の低学年や障がいのある児童の場合は、教員が紙を押さえて、子供が紙を手前に引っ張れるようにサポートするといいいでしょう。

紙をちぎったら、外部講師と話し合いながら口と目の大きさ、目の色、口と目の位置を決めます。口と目の大きさ、色、位置によって、顔の表情が変わります。

紙をちぎるだけですが、作品は作者の個性が出ます。やさしい顔、りりしい顔、ユーモラスな顔、それぞれの個性が光ります。

2

》ACTION

障がい者も創造する喜びを体験

作品を持ち帰ることができるように、フレームに入れます。作品を集めて、台紙に貼りつけ、壁紙にすることもできます。壁紙を学校や地域の施設に貼っておくと、多くの人の目に触れます。

障がい者もワークショップに参加することができます。障がい者が重く、手を使うことができない場合は、障がい者が紙を押さえ、教員やサポーターが紙をちぎるといいでしょう。

意思疎通がむずかしい場合は、サポートカードを使って、何を考えているのかを細かく引き出します。

重度の脳性麻痺者でもヘルパーや家族の協力により、サポートカードの反応を判定し、意思を確認します。むずかしい場合、見える位置で動かして反応を確かめます。

自閉症や^{ろうあ}聾啞の人でも、タブレットを活用したり、多めに時間をかけたりして、本人が位置を決めます。

動物に命が吹き込まれ、作品が完成した喜びは、ひとしおです。

活動例



▲紙をちぎる。



▲目や口の位置を決める。



▲躍動感のある作品が完成。



▲命を吹き込まれた
さかなが元氣よく泳
ぐ。

進め方 1

- ① 紙を選ぶ（好きな色を選ぶ）。
- ② 紙をちぎる（外部講師がサポートする）。
- ③ 外部講師が、「口の大きさ」「目の大きさ」
↓
「目の色」などを質問する。
- ④ ちぎった紙に、参加者が目の位置を決める。



▲意思疎通を図るためのサポートカード

進め方 2

- ⑤ 「作品をフレームに入れる」、「壁紙として貼る」の方法を選び、作品を仕上げる。
- ⑥ 参加者の名前と講師のサインを入れ、落款を捺す。

CHECK 注意ポイント

外部講師とうまくコミュニケーションがとれない子供の場合は、「サポートカード」などを使って子供の意思を確認する。
マンツーマンで指導することを原則としているため、1人あたりの指導時間は約5分。対象人数は12～15人程度が理想的。

活動のヒント

木村 太亮（絵本作家・イラストレーター）

Mail daisuke@mac.email.ne.jp

シナリオライティング

書きたいことを
シナリオに表し、映像にする

時間数 第1日目 2時限分、第2日目 4時限分 実施形態 学級ごと

講師 外部講師

ねらい

シナリオライティングを通して考える力を養う。

対象 小学生、中学生

シナリオライティングは自由に発想し、自分で考えたことをシナリオにすることができます。シナリオ作成から演技、映像制作まで、子供たちはプロセスを楽しみながら取り組んでいます。

事前準備

- シナリオ作成用紙（撮影まで実施の場合）
- 撮影用機材（カメラ、ガンマイクなど）
- カチンコ、レフ版、メガホン

TIPS 事前準備のコツ

- ・子供が撮影用機材を壊さないように注意する。

1 >>> ACTION
考え抜くことがシナリオの原点

シナリオライティングは、まずキャラクターを考えることから始めます。キャラクターの性別、名前、年齢、性格、家庭環境、仕事、ルックス、口ぐせなどを考えます。どんなキャラクターになるかは、発想次第です。

なかには、どんなキャラクターにしたらいいかを書けない子供もいます。しかし、講師は「こんなキャラクターはどう？」などと指導しません。講師は、ファシリテーターに徹し、子供たちが主体的に考え、発想するのを助けます。

子供たちをサポートするときは、膝を折って子供と同じ目線で話します。立ったままで話すと、上から目線になり、ついつい教えてしまいがちになるのを防いでいます。

キャラクターが完成したら、ドラマを盛り上げる「事件」を書きます。たとえば、何か大切なものをなくしてしまう、トラブルに巻き込まれる、大事なことを忘れてしまい、問題が起こるなどの事件です。

2 >>> ACTION
登場人物になりきって演じる

事件が起こると、キャラクターは生き生きと動き始め、ストーリーが展開し、起伏に富んだドラマになります。

シナリオが完成したら、グループで読み合わせ、演じるためのシナリオを選びます。

演じる前に、登場人物のセリフを再検討したり、ト書に書かれている内容について、登場人物の立場になって考え直したりします。

小学校からは、学芸会の前に登場人物の気持ちを理解させたいとの要望が出されることがあります。役を演じながら役の立場で考えると、役になりきることができます。

映像におさめる場合は、監督、俳優、カメラマン、照明などの役割を決めます。役割分担が決まれば、監督の指示に従い、俳優が演じる様子を撮影します。

子供が作成したシナリオをもとに、子供が演じ、さらに映像化するプロセスをすべて子供が行うことにより、考える力を身につけていきます。

活動例



▲講師は、子供と同じ目線で話す。



▲シナリオをおもしろくするポイントを説明。



▲ドラマを演じる。



▲撮影風景。スタッフもすべて子供が担当。



▲子供たちが力を合わせて撮影。

注意ポイント

・子供にシナリオをどう書くかを教え、主体的に考えさせる。

- ・シナリオの内容の指導はしない。
- ・子供と同じ目線で話す（子供と話すときは、ひざを折る）。
- ・学校の教員から授業の目的を事前にヒアリングする。

進め方 1

【第1日目】

- ① シナリオをおもしろくするポイントとは
- ② シナリオを書く。
- ③ グループ（4人）に分かれて読み合わせ、1本を選ぶ。
- ④ シナリオに合わせて演じる。

進め方 2

【第2日目】（オプション）

- ① 本読み
- ② シナリオをもとにどのように撮影するかを考え、シナリオを分解する。カット割り、ト書を考える。
- ③ シナリオに合わせて撮影する。
- ④ 撮影した映像をチェックする。
※編集（BGMの挿入、OK テイクをつなげる、DVDに焼き付け）を除く。

活動のヒント

団体 株式会社シナリオ・センター
住所 〒107-0061 東京都港区北青山 3-15-14

TEL 03-3407-6936
Mail scenario@scenario.co.jp

感性を働かせて、身体でつくる

ダンス・コミュニケーションで
輪が広がり、和が生まれる

時間数 2時間×4回+リハーサル(1時間)+発表公演(1時間) 実施形態 学年ごと(事例では2学級ごと)

講師 外部講師、楠原竜也(振付家・ダンサー)

ねらい

身体を使った表現力を高める。

対象 小学生、中学生(事例では小学5年生)

子供たちが声をあげて笑いながら、体育館を縦横無尽に動き回ります。友達と身体を使って関わり合いながら、身体を材料として「自分の形や動き」をつくり出し、その良さや美しさなどを感じ取っていきます。

事前準備

- 子供たちは体操服を着用する。
- ガムテープの名札を付ける。

TIPS 事前準備のコツ

- ・コーディネーターが事前にクラスや子供たちの状況を教員にヒアリングし、把握しておく。
- ・教員とアーティストを交え、事前に打ち合わせする。
- ・授業が終了後、振り返り、フィードバックする。

1 >>> ACTION
心と身体を解放する

アーツカウンシル東京は、ダンスや演劇、音楽などの分野で活躍するプロの現代アーティストを都内の小・中学校や文化施設、児童養護施設に派遣しています。この「パフォーマンスキッズ・トーキョー」では、ワークショップを行い、オリジナルの作品をつくり、活動の成果を発表します。

ワークショップは、外部講師のアーティストと子供たちのウォーミングアップから始まります。

「ふわふわ」、「ぐにゃぐにゃ」、「キャッチ」など、アーティストのかけ声と見本の動きに合わせ、子供たちは全身を動かしながら心もほぐします。

その後は、二人組になって身体でトンネルをつくってぐったり、手と手、頭と頭などの身体の部位を合わせて動きや形をつくったりします。

次は、手と肩など身体の異なる部位を合わせます。瞬時に動きや形をつくらなければいけないので、相手と無言でコミュニケーションを交わしながら動きや形をつくり出す必要があります。

2 >>> ACTION
アイコンタクト・ダンスで深まるコミュニケーション

目線を合わせながら、二人が近づいたり、遠ざかったりする「アイコンタクト・ダンス」では、相手の動きを注視しながら、ブリッジをしたり、トンネルをくぐったり、回転したりします。

三人組の「アイコンタクト・ダンス」では、二人の動きにもう一人が割って入り、二人組を交代しながら、身体を動かします。

子供たちは「ふだんは一緒に遊ばない人でも、身体を動かすだけで、友だちになれた」「遊びのような動きをしながら、友だちと触れ合うことができて楽しかった」と、満面の笑顔です。

担当の教員は、「プロのアーティストと活動しながら、身体を使って表現することの楽しさを味わってほしい。形や動きをつくりだす活動と、身体の形や動きの美しさを感じ取る活動を通して、豊かな情操を養っていきたい」と思いを語ります。

ダンス・コミュニケーションを通じて、創造力を育み、さらにクラスの和も広がります。

活動例



▶ ひじとひざを合わせて身体で形をつくってポーズ。

▶ 思い思いのトンネルの形をつくり、トンネルをくぐる。



▶ 手と肩を合わせて長い形をつくる（講師が見本を見せる）。



▶ 八人組で頭とふくらはぎを合わせて複雑な形をつくる。

進め方 1

【第1回目】

- ① 講師とのウォーミングアップ
「ふわふわ」、「ぐにゃぐにゃ」、「キャッチ」などのかけ声に合わせて、講師の身体の動きをまねる。
- ② 他のクラスの人と二人組になり、一人が身体でトンネルをつくり、もう片方がトンネルをくぐる。
- ③ 新しい二人組になり、手と手、ひざとひざなど身体の部位を合わせて、さまざまな形をつくる。四人組、八人組でも行う。
- ④ 新しい二人組になり、目線を合わせたまま、自由に動きや形をつくる（アイコンタクト・ダンス）。
- ⑤ 三人組になり、アイコンタクト・ダンスで動きや形をつくる。
- ⑥ 全員でアイコンタクト・ダンスを踊る。

進め方 2

- 【第2回目】影を使った身体表現の映像づくり
- 【第3回目】音楽（ドラムの生演奏）を感じながら身体表現を深める。
- 【第4回目】学年合同での活動
- 【第5回目】学校公開日に発表

※第4回目と第5回目の間に展覧会で映像を展示。

！ 注意ポイント

外部講師のアーティスト

は、子供が身体で反応できるように、見本のパフォーマンスをわかりやすく示す。速い動きのときは、子供がけがをしないように、人数を減らすなど、工夫する。対象の年齢や特別な支援を要するかどうかによって、指導のしかた、話すスピード、動きのテンポなどを調整する。また、積極的に身体を動かさない子供をフォローする。

活動のヒント

団体 特定非営利活動法人芸術家と子どもたち
住所 〒171-0031
東京都豊島区目白 5-24-12
旧真和中学校 4 階
TEL 03-5906-5705
Mail mail@children-art.net

団体 アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）
事業推進室 事業推進課
住所 〒102-0073
東京都千代田区九段北 4-1-28 九段ファーストプレイス 8 階
TEL 03-6256-8434

草木染めと日本の色彩

染織家・志村ふくみの
色彩世界から学ぶ

時間数 5～6時限

実施形態 学級ごと

講師 外部講師

ねらい 植物と私たちの関係、色の物語、目に見えない世界について染色を通して考える。

対象 小学生(事例では小学4年生)

京都市の私立R小学校は、平成28年度から染織家・志村ふくみの色の世界をもとに学ぶ草木染めの授業を行っています。植物で染めた色は、土や水、火、風など地球の全てでもって自然界が見せてくれる色です。この授業は、自然と人間が共にあるということを感じ、そこに広がる世界を考えるきっかけとなります。

事前準備

- 染める布を人数分用意する。
- 染める植物を決め、炊き出し、漉しておく。

TIPS 事前準備のコツ

- ・ 季節を目で見て、においを嗅いで、耳で聞いて、肌で触れて、どんなことを感じ取ったかを子供たちに事前に問いかけておき、五感を使う意識の準備をしておくが良い。
- ・ 子供向けの場合、糸を染めるよりも布を染めるほうがやりやすい。草木染めとの結びつきを考えると、素材は絹が望ましい。

1 >>> ACTION
草木の色から日本人の自然観を思い起こす

日本人は昔から自然の声なき声に耳を傾け、いのちの深みを感じ、大切に想ってきました。

実際に授業を行ったR小学校の教員は「染めているうちに少しずつ色が変わっていく不思議さ、染め上がった物に対する愛おしさを感じた時に、自然の素材を通して地球そのものとつながっているような実感を得た。」と感想を述べています。

植物の色を染めることは、植物のいのちの色をこの世に表すということです。その輝く色を目にした子供たちや、その様子を見守る大人も、そこに宿る魂に触れ、普段身近にある自然のありがたさを改めて感じるができます。

また、日本の湿潤な自然が生み出した色彩世界と深く結びついているのが、言葉です。和歌や伝統色の名前を見るだけでもその豊かさを知ることができます。授業の最後には、自分が染めた色の名前をつけたり、感想を詩で表現したりすることも、色と言葉の結びつきを感じるひとつの方法です。

2 >>> ACTION
植物を通して開く世界への扉

同じ植物で染めたとしても、植物が育った地域や季節によって多様な色味を見させてくれます。授業では、四季折々の植物やその地域になじみがあるもの、縁のあるものを染料として選ぶことで、日本の文化を知り、そして世界の文化を考える礎になります。

さらに、国や風土により、さまざまな特性をもつ植物の美しい無限の色に目覚めることは、子供たちの芸術精神を養うことにもつながります。

R小学校では、スペインから運ばれてきた樹齢100年のオリーブを染める特別な機会がありました。古来より神木として各国で親しまれてきたオリーブ。子供たちは、次のような感想を記しています。「オリーブは、食べたり、木材になったり、染めたりできて、すごい植物だと思った。」「オリーブの木のいのちが、染めた色として生き返ってうれしい。」

草木染めをきっかけにして文化や歴史、そこに生きる人々と、心の交わりができる時間になるよう心がけることも、この授業を行う際のポイントです。

活動例

進め方 1

① 草木染め体験

- (1) 炊き出した染料で絹の布を染める。
 - (2) 灰汁や鉄、銅、石灰などで媒染する*³。
 - (3) 布を水洗いし、干して乾かす。
- (全体で約 1 時間)
- (注 3) 媒染
媒染することで色が定着する。



▲炊きだした染料を濾す。



▲炊き出した染料で絹の布を染める。



▲媒染する。



▲空気と陽の光に触れさせる(空気媒染)。

CHECK 注意ポイント

草木染めは、火を使用して高温になるまで染液を熱するので、やけどに気をつける。

進め方 2

② 体験をもとにまとめ

1 日を振り返ったまとめを書く。正解や不正解はないので、感じたことを表現してもらうことを大切にする。文章でも詩でも絵でもよい。



▲体験を振り返り、まとめる。

活動のヒント

団体 株式会社 FUKUMI SHIMURA
TEL 075-746-3303
Mail info@shimuranoiro.com

URL <https://shimuranoiro.com/>
 草木染めと日本の色彩については、芸術学校「アルスシムラ」への入学や、しむらのワークショップで学ぶことができます。

手作り新聞・ルポの発信

ジャーナリストになって
オリ・パラ参加

時間数 2時限分

実施形態 中学生、高校生が中心、小学生高学年も一緒に参加。

講師 外部講師(新聞記者)

ねらい

文化を掘り起こし、地域活性化に貢献する。

対象

中学生、高校生

東京 2020 大会に合わせ全国各地で開催される、地域文化をテーマにした文化プログラムなどを対象に中高生中心に取材し、手作りの新聞・ルポとして発信する活動です。

10 代がジャーナリストになって表現力を向上させ、地元を元気にする社会貢献の取組みです。

事前準備

- 筆記具、メモ帳、カメラ（可能であれば）

TIPS 事前準備のコツ

- ・ 中学生、高校生の関心が高い文化プログラムなどを取材対象にする。
- ・ 地元新聞社にレクチャー講師役の記者の派遣をお願いする。
- ・ 中学校、高校などを通じて参加生徒を募集する。
- ・ 参加する生徒に配布する参考資料、新聞用原稿用紙などを準備する。

1

ACTION

文化を取材し、新聞で発信

取材会前に、新聞記者が生徒を対象に取材のマナーやインタビューのコツ、新聞の基礎知識などについてレクチャーします。新聞を制作したりルポを書いたりして表現するには、見学するだけでは足りません。主体的に関係者の話を聞き、メモを取り、疑問をもつようにし、仲間と意見交換しながら資料を調べ、多面的に理解を深める必要があることを感じてもらいます。

取材会場では、展覧会や公演をじっくりと観賞し、見たり聞いたりした事実だけでなく、疑問や気付いたことなどを小まめにメモするように促します。作品解説やパンフレットに書かれていることは正確に書きとめるように注意を喚起します。

取材会の最後に、展覧会であれば学芸員や作家、公演なら役者や演奏家といった人たち取材します。臆せずたくさんの質問を発したくなる環境を整えることで、文化の担い手との対話からすばらしい発見、気づきが得られることを実感するでしょう。

2

ACTION

ジャーナリストの仲間入り

取材会から 2～3 週間後をめどに、参加した生徒たちに、取材の成果を手作り新聞やルポにして提出してもらいます。

文化プログラムプレスセンターの取材で過去に制作された手作り新聞などは専用ウェブページ (<http://www.presscentre.net>) にアーカイブされており、これらを参考にした優れた手作り新聞・ルポが続々と誕生しています。

新聞記事は、事実の記録を主な目的とした「本記」、人物などに光りを当てる「サイド」、取材会場の雰囲気やありありと伝える「雑観」、文化の背景や社会への影響などをやさしく説き起こす「解説」、読者を楽しませる「Q&A」「クイズ」など多彩な内容で構成されています。読者に伝わるように意識して書くことで、文章を書く力、表現力が向上します。

提出された手作り新聞・ルポは専用ウェブページ(同)に掲示され、国内外に発信されます。プレスセンターのジャーナリストの仲間入りです。

活動例

進め方 1

① レクチャー

中学生・高校生 15分

取材のマナーやコツ、新聞の仕組みなどを学んでおく。

② 文化プログラム概要説明 5分

取材対象の企画・イベントの趣旨、概要を頭に入れておく。



▲京都新聞記者からレクチャーを受ける高校生たち (2017年7月、京都府宇治市)



▲文化プログラム取材する中高生たち (2016年11月、東京都内)



▲文化プログラム取材する中高生たち (2017年3月、東京都内)

進め方 2

① 取材会 60分

② 合同インタビュー会 10分

作家、出演者らと質疑応答し、理解を深める。

③ 感想会 5分

感想を披露し合い、感じ方や考え方の多様性を学ぶ。

Check 注意ポイント

○コンパクトに

活動は合計2時間以内が目安。

○積極性を引き出す

気軽に質問できるよう取材会前に予行演習を行う。

○チーム感醸成

初対面の生徒同士のペア取材など交流を促す。

○すべて正解

生徒の意見をしっかり受け止め、ほめる。

○完読されなきゃ表現じゃない

最初から最後まで読んでもらえる読者重視の新聞・ルポが目標。



▲錦城高校の生徒が作ったプレスセンター新聞

活動のヒント

団体 文化プログラムプレスセンター事務局
住所 〒105-7201 東京都港区東新橋 1-7-1
 共同通信社内

TEL 03-6252-8466
Mail presscentre.dsv@kyodonews.jp

特別支援学級で学ぶ共生

特別支援学級と普通学級が表現活動を通じてともに生きるすばらしさを知る

時間数 2時限

実施形態 学年ごと

講師 外部講師(NPO 法人演劇百貨店)

ねらい

障がいの有無にかかわらず、お互いを受け入れる。

対象 小学生(事例では小学6年生)

東京都品川区では、文化庁の「文化芸術による子供の育成事業」の一環として、特別支援学級と普通学級が合同で、演劇ワークショップを行っています。子供たちが同じ活動をしなが、お互いに受け入れることがねらいです。

活動例

進め方 1

① アイスブレイク

「だるまさんがころんだ」で遊びながら、身体をほぐす。

② 人数と表現する物を指定してグループで形をつくる(例えば5人で洗濯機等)。

③ 花の一生を表現する。

各グループの発表の後、子供たちが感想を伝える。

④ 即興劇

桃太郎の映画のCMをつくる。



1

ACTION

ともに活動し合いながらお互いを受け入れる

品川区のH小学校の体育館に、普通学級の子供64名、特別支援学級の子供5名が集まりました。

これから始まるのは、演劇ワークショップです。講師をつとめるのは、NPO 法人演劇百貨店のアーティスト。

まず、アイスブレイクとして、「だるまさんがころんだ」を行いながら、身体をほぐします。遊びの中で、相手の声に耳を傾けます。

身体がほぐれたら、講師が人数と表現する物を指定して子供たちにグループを組ませてつくります。例えば「5人で洗濯機になって!」のかけ声で、近くにいる5人で洗濯機を表現します。洗濯機の形やぐるぐる回る様子などを表します。

次は、花が咲いて散るまでの花の一生を表現します。散り際のはかなさ、満開に咲いた花のあでやかさ、蝶々が花の周りを飛んだり、人間が花を愛でたりする様子など、さまざまな表現が展開されます。

最後に桃太郎の映画CMをつくります。川から桃が流れてくるシーン、鬼退治にくだすシーンなどストーリーはまちまちで、グループごとにオリジナリティがあふれています。

こうしたワークショップを通じて、特別支援学級で学んでいる子供たちも普通学級の子供たちと一緒に打ち解けて体験活動に参加しています。

障がいのある子供たちの生活の範囲は学校と家庭に限られていることが多く、自分から地域との接点、社会とのつながりを求めることが少ないのが現状です。しかし、新潟市では地域の中にさまざまな人と触れ合う機会が増え、子供たちの生活に変化が見られています。



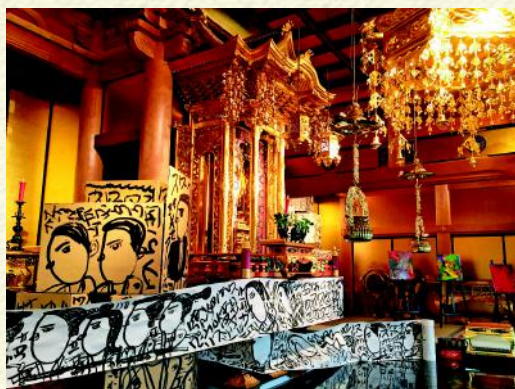
▲特別支援の子供が関わった創作の場



▲「創作の場」バルーンで遊ぶ様子



▲朱鷺メッセでブローチ販売の様子



▲極楽寺では、学齢期の子供の作品も展示

2 ACTION アートで広がるコミュニティ

新潟市のある特別支援学校では、地域の人と交流しながら自分に合った余暇の過ごし方を考える学習をしています。子供たちは、障がいのある人や障がいのない人と協働する機会を通して、活動に参加する楽しさや人と触れ合う喜びを感じ、地域の中に自分の居場所を見つけています。

「交流は続けることが重要。経験を積んで、インクルージョンを実現する。」

新潟市で障がいのある人の創作活動を支援している NPO 法人アートキャンプ新潟代表の近守さんは言います。

また、アートキャンプ新潟は、障がいのある人が自由に絵を描いたり、デザインしたりできる場所「創作の場」を市内に設けています。

新潟県小千谷市や新発田市のお寺では、広い空間を活用して障がい者の絵を飾り、障がい者が作品について語る場を提供しています。障がい者のアーティストは、話を聞いてくれることが励みとなり、創作意欲を高めます。

イベント会場では、風船をひねったり、切ったりして動物や花などを作る「バルーンアート」教室が行われました。

障がい者が作ったブローチを売り出し、障がい者は商品が売れると大きな自信をもつようになります。

活動のヒント

団体 アートキャンプ新潟

住所 〒950-0067

新潟県新潟市東区大山 2-11-8

TEL 090-1373-9076

Mail aroma@pure.ocn.ne.jp

アートキャンプ新潟 近 守

障がい者の生きがいや存在価値を高め、就労支援につなげる

障がい者が描くアートは、色づかいや構図などがユニークで、目を引きつけられます。

新潟市では、バス停、カフェ、会社のエントランスなど街のいろいろな場所に障がい者のアート作品が飾られています。まさに「まちごと美術館」です。

●障がい者と共に生きる街づくり活動

平成 28 年 4 月新潟市は、「障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例」を施行しました。新潟市が行っているイベント「Niigata Candle Garden」では、障がい者がキャンドルを作っています。地域の子供たちが中心となって、キャンドルを並べたり、片づけたりして手伝いました。

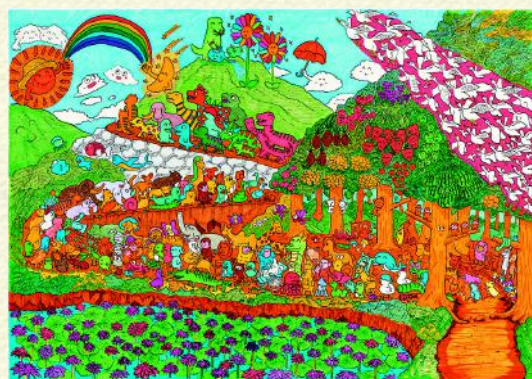
「NIIGATA 光のページェント」では、障がい者が電飾を製作しています。7～8 人の子供がプロジェクトチームを組み、「光のページェント」のチラシを作成し、広報活動をしました。

小学生が障がい者と共に生きることに関心を抱いたのは、ビルメンテナンス会社の代表が小学校で行ったある授業がきっかけです。障がい者が描いた絵を見せたところ、子供たちは感銘し、街の身近な生活空間に絵を飾り、多くの人に見てもらいたいと強く願いました。区役所の担当者などに絵を飾ってほしいと思いを伝えました。同時に、障がい者が置かれた現実を知りました。

子供たちは、アーティストにも関心をもち、障がい者と共に生きる街づくり活動を自発的に始めました。



▲小学校での授業—
障がい者のアート作品を見る。



▲作品名：SAGATA2016
作家名：しゅんすけ



▶障がい者アートに見入る小学生。



▲地域の人たちに観てもらうためのキャプションづくり



▲小学生も街なかで障がい者アートの美術館を実現。



▲子供たちは作家さんと似顔絵を描き合って、コミュニケーションをとりました。

●存在価値が認められ自尊心を高める

まちごと美術館の3つのSミッションは、次の通りです。

① Social Business

- ・収入を得て、暮らしを立てる。
- ・福祉施設と障がい者の共通目標づくり。障がい者の活力と自尊心を育む。

② Social Inclusion

- ・福祉・家族との障がい者の目的地づくり。
- ・地域・企業と障がい者のコミュニケーションづくり。

③ Sustainability

- ・多様性のある子どもたちを育む。
- ・地域全体でつくる持続可能な社会づくり。

ビルメンテナンス会社は、企業や学校などに絵を貸し出し、その収入の一部を障がい者に支払います。また障がい者は「画伯」とか「先生」と呼ばれ、存在価値が社会に認められ、自尊心やモチベーションが高まります。新しい絵を描こうという意欲も湧いてきます。

学校は、絵を借りることを社会貢献活動の一環としてとらえ、企業はCSR活動だけでなく、事業命題としてとらえた取り組みが広がっています。

まちごと美術館の次のステップは、障がい者の就労支援です。障がい者がどんどん街に出ていき、地域の人と触れ合い、さらに配達などの仕事を担当するようになることです。

こうした循環のモデルが、他の地域にも広がる可能性を秘めています。

？活動のヒント

団体 株式会社バウハウス

住所 〒950-0982

新潟県新潟市中央区堀之内南 1-32-16 3F

TEL 025-248-1960

Mail toiwase @ cotocoto-museum.com

【コラム】被災者の心を支える「日田祇園祭」

災害を乗り越えて、 祭りのお囃子が響きわたる

2017年7月、九州北部を襲った豪雨は、甚大な被害をもたらしました。

7月22日、23日復旧作業のさなかでしたが、大分県日田市では「日田祇園祭」が行われ、被災者の心に火がともりました。



▲山鉦が町を練り歩く。



▲山鉦を引く男たち

●疫病や風水害を払い、安泰を祈念する祭り

豪雨の後、梅雨が明け、真夏の陽射しが照りつける中、500人を超えるボランティアが、土砂や崩壊した住宅から出された大量のごみを撤去する作業に追われていました。

豪雨の影響で「日田祇園山鉦集団顔見世」などの事前の関連行事は中止になりましたが、本祭は予定通り行われました。もともと日田祇園祭は、自然災害や厄を払い、安泰を祈念する願いが込められています。その本来の趣旨を尊重して、日田祇園祭が実施されることになりました。

日田祇園祭は、300年以上続く伝統的な祭りで、豆田八坂神社、隈八坂神社、竹田若八幡宮（若宮神社）の神事です。2016年には、全国の「山・鉦・屋台行事」の一つとしてユネスコの無形文化遺産に登録されました。

絢爛豪華な9基の山鉦は、それぞれ歌舞伎の一場面などを表現した人形や花、金糸の刺しゅうを施した見送り幕で彩られ、優雅な祇園囃子の調べに乗って、隈・竹田地区、豆田地区を勇壮に巡行しました。



▲優雅な晩山の巡行



▲夜空に浮かび上がる晩山

●「災害に負けない」一祭りに思いを込める

夜には提灯を飾りつけた優雅な晩山の巡行が行われました。提灯の灯りが夜空に映えます。

日田の人々は、「豪雨災害に負けない！ 日田は元氣だ」との思いを込めながら、山鉦が練り歩く姿を感慨深く見つめていました。

また、日田祇園祭を控えた7月20日、山鉦のバランスや調子を見るための試運転「流れ曳き(びき)」が各町でありました。

豆田下町では神事の前に、毎年同町の山鉦に参加し、九州北部豪雨に伴う土砂崩れで殉職した消防団員を悼む祇園囃子が演奏されました。

2017年の日田祇園祭は、災害からの復興を祈る特別な祭りとなりました。

2018年7月21日～22日、日田祇園祭が開催されます。日田祇園祭に先立ち7月19日、2017年は豪雨のため中止になった「日田祇園山鉦集団顔見世」が行われます。

活動のヒント

団体 一般社団法人日田市観光協会
住所 〒877-0013 大分県日田市元町11-3
TEL 0973-22-2036

【コラム】水と土の芸術祭

芸術のすばらしさを体感し、 子供の創造性を育む

2018年7月14日～10月8日、新潟市で「水と土の芸術祭 2018」が開かれます。これは、新潟市の「水と土」によって形成された独自の風土や文化に光を当てることで、自然との関わりかたを見つめ直し、未来を展望していくヒントを探ることを目的に、新潟開港 150 周年記念事業の主要事業に位置づけて実施されます。

水と土の芸術祭の中の「こどもプロジェクト」は、多彩なワークショップを通じて、子供の創造性を育むプロジェクトです。

アーティストによるワークショップは、新潟市の小中学校の教員がコーディネーターになり、アー

ティストと連携して、学校やこども創造センターなどで、夏休みや週末を中心に開かれます。

2015年に開催された「こどもプロジェクト」の事例を紹介します。



▲行武治美氏によるワークショップ
「まぼろしのすみか」
(撮影：中村 脩、水と土の芸術祭 2015)



▲絵本作家・荒井良二氏によるワークショップ
「カタガタ、マキマキ～旅の絵巻ものがたり～」
(水と土の芸術祭 2015)

●事例 1

鏡を使っておもしろい空間をつくる

行武治美氏による「まぼろしのすみか」は、鏡を使っておもしろい空間をつくるワークショップです。広場で設計図をもとに段ボールを組み立て、段ボールにミラーシートを貼ります。

子供たちは、まぼろしのすみかにするにはどうしたらいいかを話し合いながら、形をつくっていきます。そして、すみかの室内にもミラーシートを貼ります。

完成すると、ミラーシートに光が反射し、景色が映りこみ、ユニークな造形が出来上がりました。

●事例 2

ロールキャンバスに物語を表現

荒井良二氏による「カタガタ、マキマキ」は、大きなロールキャンバスに物語を描くワークショップです。

最初に荒井氏が描き方を手ほどきした後、子供たちが想像力をふくらませながら、自分の思いのままに絵を描いていきます。筆やローラーだけでなく、手や足も使って描きます。爪で引っかいたり、足の指で描いたりしたタッチは、おもしろ味があります。完成した絵巻を特製のフレームに入れて、ぐるぐると回していくと場面が次々に変化し、まるでアニメーションを見ているようです。



▲井川惺亮氏によるワークショップ
「生き返る命の輝きをアートする（行方の第一歩）」
（撮影：中村 脩、水と土の芸術祭 2015）



▲真下恵氏によるワークショップ
「Noism こどものためのからだワークショップ」
（撮影：中村 脩、水と土の芸術祭 2015）
（注4）りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館
専属舞踊集団 Noism



▲佐藤智香子氏によるワークショップ
「潟の恵みと新潟ごはんを作ろう！ 食べよう！
学んじゃおう！」（撮影：中村 脩、水と土の芸術祭 2015）

●事例3 「生き返る命の輝きをアートする」

井川惺亮氏によるワークショップは、アートを通して物を大切にする意味を理解することを目的としています。対象は小学生です。

まず、井川氏が紙の廃材を使った作品づくりについて説明するとともに、デモンストレーションします。子供たちは、廃材の中から材料を探し、材料に着色し、ドライヤーで乾かします。

最後は作品を会場いっばいに貼りつけることで、色彩豊かな空間が広がりました。

●事例4 遊びを通して身体表現を学ぶ

Noism^{*4} 真下恵氏によるワークショップ「Noism こどものためのからだワークショップ」のテーマは、遊びを通して身体表現を学ぶことです。

ワークショップでは、「だるまさんが転んだ」から身体表現につなげます。まず、「だるまさんが転んだ」の合図でポーズをとり、止まった時に、動物になりきります。

真下氏が動物のなり方についてアドバイスすると、子供たちは動物の特徴をとらえた動きをとるようになり、動きも変わっていきます。そして、会場は笑いに包まれます。

●事例5 潟の恵みと新潟ごはんをつくる

新潟県は、米をはじめ食材の宝庫です。

佐藤智香子氏による「潟の恵みと新潟ごはんを作ろう！ 食べよう！ 学んじゃおう！」では、潟でとれる食材を使った料理教室が開かれました。

講師は、料理教室を主宰している佐藤氏。じゅんさいを使ったお汁、車麴を使ったメニューは、子供たちも大喜びでした。

「みずつち給食」は、学校給食にも採用されました。

活動のヒント

団体 新潟市 文化スポーツ部文化創造推進課
住所 〒951-8550 新潟市中央区学校町通1
番町602番地1（市役所分館2階）

TEL 025-226-2632
Mail bunkasozo@city.niigata.lg.jp

【コラム】地域アーツカウンシルの活動

地域の文化芸術資源をつないで支える —日本型地域アーツカウンシル始動

文化芸術の力で地域が抱える社会的課題を解決し、新しい社会モデルの構築につなげる—。

文化プログラムで地域を活性化するには、自治体、地域の文化団体、大学、アーティスト、ボランティアなどの連携が求められています。その要の役割を果たすのが、地域アーツカウンシルです。

●地域アーツカウンシルの始動

2015 年 5 月に閣議決定された「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第 4 次）—文化芸術資源で未来をつくる—」で提言され、本格的な導入が始まった地域アーツカウンシルには、次のような役割があります。

1. 地域の文化芸術資源の「編集者」- 中間支援機能の担い手

地域の文化芸術活動を行う担い手は実に多様です。異なるジャンルや機関団体、個人をつなぎ、立場の違う人々を仲介しつつ、地域の文化芸術資源を教育、福祉、医療、環境、防災、まちづくりなど、文化以外の領域にも接続させる支援を行います。

2. 地域と文化のプロフェッショナル- 地域文化専門職

地域を熟知するとともに、文化芸術全般についての知識や経験をもつ専門職を擁し、行政からは独立した立場で、地域の文化芸術活動の振興に寄与します。

3. 地域の文化プログラムを助成金で支える - 助成制度を運営

地域の文化芸術活動を資金面で支える助成制度を運用します。

4. 地域の文化芸術政策を検証し評価・提言する - 地域のシンクタンク

常に地域の文化芸術活動の状況を分析、助成制度や支援活動の効果を把握するなど、地域文化の発展と充実に向けての提言を行います。

5. 文化芸術でネットワークする - 全国展開のハブ

地域独自の取組や成果を全国に発信し、他地域との連携を深めるハブになります。

これまでに、沖縄アーツカウンシル、アーツカウンシル東京の他、横浜市、新潟市、静岡県、大阪府、大分県、岡山県、岩手県の 7 団体が加わり、それぞれの地域の実情を踏まえた活動を始めています。
〔参考文献〕吉本光宏：地域アーツカウンシル—その現状と展望（ニッセイ基礎研究所報 Vol.60 | June 2016 | Page93-115）

地域アーツカウンシルの一つ、アーツカウンシル新潟は 2016 年 9 月に設立され、以下のような目的を掲げています。

- ①社会包摂の実現に貢献する、あらゆる市民が主体の文化芸術活動の活性化
- ②新潟文化の形成、発信による北東アジアの文化交流拠点都市の形成
- ③文化芸術の多面的利活用による文化創造交流都市・新潟の基盤強化とブランド発信
- ④持続的・自律的なアーツカウンシル組織の確立



▲アーツカウンシル新潟でのトーク・イベント。



▶市民からの相談に応じる（アーツカウンシル新潟）。

第4章

文化プログラムの企画から 実施までのポイント

- 企画から実施まで
- 文化プログラム推進のポイントー地域人材の有効活用
- 文化プログラム推進のポイントー地域の美術館と学校との連携
- 文化プログラム推進のポイントー大学のアウトリーチ活動
- 文化プログラム推進のポイントー文化を伝承するための教員育成

【コラム】文化芸術による子供の育成事業

企画から実施まで

文化プログラムの企画から実施までのワークフローは、下図の通りです。段階ごとの注意ポイントを以下の通りまとめます。



▲図表2 文化プログラムの企画から実施までのワークフロー

1. 企画段階

日本には、日本古来の伝統文化、地域に伝承されている特有の文化、現代文化などさまざまな文化があります。文化プログラムに関する授業を企画するにあたり、さまざまな文化の中から何を選び、何を児童生徒に伝えたいかを考えます。

地域に伝承されている文化についての授業を企画する場合は、地域文化を伝承しようと活動している地域人材がいます。そうした地域の活動家を見つけ、相談するのもいいでしょう。

最初は、外部講師に授業の進行を依頼し、授業の内容を把握したら、教員自身が授業を行うのもいいでしょう。

文化プログラムを企画するにあたり、文化庁の文化情報ポータルサイト“Culture Nippon” <http://culture-nippon.go.jp> を参照するのもいいでしょう。東京 2020 応援文化オリンピアード、beyond2020 プログラムとして、どのようなプログラムが認証されているかを調べます。Beyond2020 のプログラムの内容、申請方法などが掲載されています。



▲“Culture Nippon” <http://culture-nippon.go.jp>

文化プログラムに関する授業は、次のような特徴があります。

①日本文化の伝統を知り、世界に発信する力を育む

長い年月をかけて継承してきた日本文化のすばらしさを知り、世界に発信する力は、将来、グローバルリーダーとして世界で活躍するとき、活用できるスキルです。

地域に根づく文化を知り、日本の伝統文化、現代文化を知る機会です。

②さまざまな資質・能力を育む

協働作業のワーク、話し合い、発表などの活動を通して、コミュニケーション、チームワーク、創造力、想像力などのさまざまな資質・能力を育むことができます。

③クラスメイトのすぐれた一面を知る

音楽、美術などに秀でた力を発揮するクラスメ

イトのすぐれた一面を知るきっかけになり、子供たちの自己肯定感を高めることができます。

④他者を尊重する気持ちや思いやりなどを養う

協働作業を通じて、他者を尊重する気持ち、思いやり、誇り、自信、自己肯定感などを高めることができます。

⑤障がいの有無、国籍などに関わらず、共生する姿勢を育む

障がいをもつ子供も、障がいがない子供も共に学び、協働する活動を通じて、お互いを理解し、ともに生きていくことを学ぶことができます。

同様に、国籍がちがっても、協力し合いながら共生する力を身につけます。



▶新潟市の創作の場では、障がい者が絵を描いたり、デザインしたりする。



▶身体表現で創造力、想像力を養う。

2. 準備段階

①資料類の準備

- ・ワークシート
 - ・模造紙、画用紙など
 - ・カラーペンなどの文房具
- などを必要に応じて用意します。

※児童生徒が記入しやすいように、ワークシートを用意することをお勧めします。

②机、いすの配置

グループワークを行う場合は、4～5名が1グループになるように、島形式に机といすを配置します。

③機器類の準備

準備するものについては、授業案ごとに記してありますので、ページごとの「事前準備」をご参照ください。

パソコン、プロジェクター、スクリーンを使用する場合は、事前に接続し、動作を確認しておきます。

3. 実施段階

学級担任または教科の専科など、内容により学校内で中心的な役割を担う教員を決め、連絡を取り合うことをお勧めします。

協働作業をスムーズに進行するために、教員が模範例や完成イメージを示したり、児童生徒が何に困っているかを問いかけてたりします。

授業が終了したら、早めにアンケートをとり、満足度、理解度、活用度を測ります。活用度については、授業で学んだことを活かして、どのように行動したいか、どのようにステップアップしたいかなどを質問します。児童生徒のアンケートを集計・分析します。

注意ポイント

授業を企画するにあたり、教員が自ら指導する場合と外部講師を招く「出前授業」を行う場合があります。

教員が自ら指導する場合は、教科の学びとどのように結び付けることができるかを検討します。出前授業を企画する場合は、外部講師と事前に入念に打ち合わせする必要があります。

事前打合せを行い、講師に要望事項を伝えます。クラス内のコミュニケーションに問題がある場合は、その旨を伝えておきます。

アンケートのサンプルは下図の通りです。

Q1 今日の授業をまた受けてみたいですか。	1. はい 3. どちらともいえない (理由：)	2. いいえ
Q2 今日の授業を友だちにすすめてみたいですか。	1. はい 3. どちらともいえない (理由：)	2. いいえ
Q3 授業の内容はわかりやすかったですか。	1. とてもわかりやすかった 3. わからなかった	2. わかりやすかった 4. まったくわからなかった
Q4 授業の内容を理解できましたか。	1. よく理解できた 3. 理解できなかった	2. 理解できた 4. まったく理解できなかった
Q5 外部講師の説明はわかりやすかったですか。	1. とてもわかりやすかった 3. わからなかった	2. わかりやすかった 4. まったくわからなかった
Q6 新しくわかったことやあらためて実感したこと などがありましたか。	1. 大いにあった 3. なかった	2. あった 4. まったくなかった
Q7 きょう勉強した内容は前から知っていましたか。	1. よく知っていた 3. 知らなかった	2. 知っていた 4. まったく知らなかった
Q8 授業でとくに心に残った内容がありましたか。		
Q9 もっと知りたいこと、学んでみたいことがあればお書きください。		

4. 改善段階

アンケートの集計・分析をもとに、授業の進行のしかた、時間配分、ワークシートなどの資料を改善します。外部講師に依頼した場合は、アンケートの集計・分析結果を伝え、改善を促します。

さらに、児童生徒の満足度、理解度をもとに新たな授業を企画します。

また、アンケートの集計・分析を学校内で共有します。

【ポイント】文化プログラム推進のポイントー地域人材の有効活用

地域は人材の宝庫

地域には、伝統文化が残り、文化を伝承しようと地道に活動している人たちがいます。学校が地域の伝統文化についての授業を企画するとき、地域の人々に協力を依頼するとスムーズに進みます。

●地域コーディネーターが重要な役割を果たす

教員自身が文化プログラムを企画し、実際に指導するのがむずかしいことがあります。

そうした現状で、地域人材を発掘し、地域人材の協力を得るのが、最も効果的な方法です。

地域コーディネーターは、下記のような機能・役割を担っています。

- ・学校教育支援を推進していくために必要な地域資源を発掘し、地域の人々との人的ネットワークを築く。
- ・クラスの状況、学校のニーズなどを事前にヒアリングし、状況を把握したうえで、教育活動の企画・運営管理・実施を支援する。
- ・教育プログラム等を実施するにあたり、学校と教育支援人材および教育支援人材間の連絡調整

多くの自治体では、地域コーディネーターは、NPO 法人やボランティア団体、企業などが担っています。

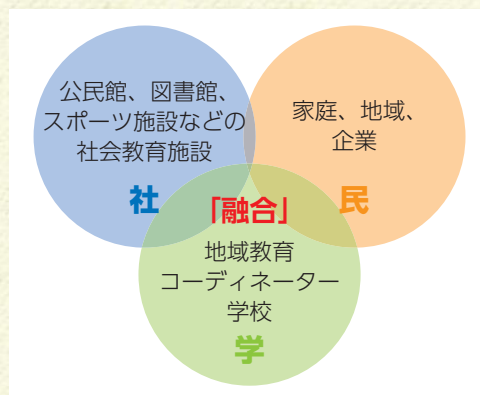
●新潟市の地域教育コーディネーターの仕事

新潟市は、平成 19 年から「学・社・民の融合による教育」を進め、「地域と学校パートナーシップ事業」を実施しています。

新潟市が地域教育コーディネーターを市の職員として任用している点が、他の自治体と異なります。地域教育コーディネーターは、新潟市の 166 校の小学校、中学校、中等教育学校、特別支援学校すべてに配置されています。

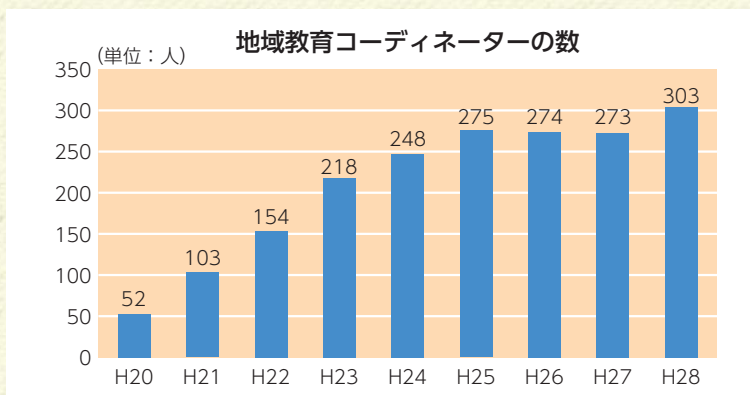
地域教育コーディネーターの仕事は、次の通り実に多彩です。

- ・学校や地域団体、社会教育施設との連絡・調整
- ・学校支援ボランティアを募り、教育・課外活動につなげる。
- ・地域のネットワークを生かして、外部講師やボランティアを探す。
- ・地域文化を学校の教育活動とつなぐ。
- ・学校における学びの拠点づくりに関すること。
- ・学校の教育活動の様子を地域へ発信する。等



▲図表 4

新潟市の「学・社・民の融合による教育」のイメージ



▲図表 5

新潟市の地域教育コーディネーターの数の推移



▲新潟市立升潟小学校の樽太鼓伝承活動



◀新潟市立黒埼南小学校の伝統芸能活



▲新潟市立臼井中学校の臼井棒踊りの講習会

◀新潟市立南浜中学校の短歌・書道講座



▲新潟市立横越小学校のそば打ち体験

◀新潟市立小須戸小学校の豆腐づくり(3年生)

【ポイント】文化プログラム推進のポイントー地域の美術館と学校との連携

作品を鑑賞し、自分の見方や感じ方を深める

時間数 2時間

実施形態 学年ごと

講師 美術館の学芸員＋教員

ねらい

対話による鑑賞等を通じて、自分と他者がちがう見方や感じ方をしていることを知る。

対象 小学3年生～6年生（事例では小学5年生）、中学生

地域の美術館と学校が連携することにより、子供たちが質の高い美術作品などを鑑賞し、美術作品と向き合うことを通じて、自分の見方や感じ方を深めています。自分や他者への理解にもつながり、美術への関心が高まっています。教員同士の美術館を活用した取組みへの話し合いも深まってきています。

事前準備

- ワークシート
- ファシリテーターやタイムキーパーとしてサポートする学生ボランティアに協力を依頼する。

TIPS 事前準備のコツ

事前に美術館に訪問し、施設や作品について調べておく。特に作品を前にした時、子供たちが何をどう感じるか想像し、そして子供たちに何を伝えたいか整理しておく。

芸術家や作品にまつわる逸話、作品の形質・技法、時代背景や同時代の日本の歴史なども調べておくが良い。

1 >>> ACTION 作品が放つエネルギーで子供が変わる

作品を写真で見ると、美術館で鑑賞し、身体で感じるのでは感動が大きく異なります。絵の具が厚く塗られた凹凸、筆のタッチなどを間近で見ること、芸術家の命が吹き込まれているのを感じます。

地域の美術館や博物館などで実際に芸術鑑賞し、学芸員とともに作品について対話すると、自分の見方や感じ方が深まります。それが自分や他者への理解にもつながります。さらに、芸術家の人生や生きた時代にも思いを馳せるようになります。

東京・八王子市にある東京富士美術館は、日本、東洋、西洋の約3万点に及ぶ絵画、彫刻、写真、工芸などを所蔵しています。

同美術館は、2012年秋から市内の小中学校と美術館をつなぎ、児童生徒を送迎する「学校鑑賞バス」事業を始め、美術館を活用した多様な連携授業を行っています。鑑賞授業のポイントは、①よく見る ②感じる ③考える ④（他者に）話す ⑤（他者の）話を聞く です。

2 >>> ACTION 作品を見て、感性が育まれる

自由時間では、少人数に分かれ、自分なりの感じ方で作品を鑑賞します。また、教員や友達と意見交換し、作品の見方や感じ方は人それぞれであることを知ります。

作品は、不思議な力をもっています。どの子供でも、じっくり作品を見つめています。また、子供が学校とは異なる一面を見せることも多く、教員は驚いています。

同美術館は、八王子市小学校教育研究会の図画工作部鑑賞グループと連携した活動を行っています。グループの教員も鑑賞授業を参観し、鑑賞授業後、授業を総括し、前後にどのような授業をしたらより有効かなどを意見交換し合っています。

鑑賞授業を経験した後、再度友達同士や保護者と一緒に来館する子供が増えてきています。保護者を相手に「絵を見てどう感じた？」などとギャラリー・トークを始める子供もいます。

鑑賞授業を機に、感性が育まれているようです。

活動例



▲学芸員とのギャラリー・トーク



▲学生とのギャラリー・トーク



▲ワークシートに感想などを記入しながらの自由鑑賞



▲自由鑑賞。作品をじっと見つめる。

進め方 1

① 対話による鑑賞（児童と作品をつなげるような発問や対話を通した鑑賞）

まず、1つの作品をじっくりと見た上で、作品を見てどのように感じたか、考えたかなどを発問しながら、子供たちの思いや考え、またその理由などを引き出す。

学芸員は、作品の隣に掲示してあるキャプション（作品の題名、作者名、国名などを示してある）や貴重な芸術作品を守る美術館の使命や展示環境についても説明する。

CHECK 注意ポイント

鑑賞する際、作品保護の観点からのルールや公共空間でのマナーに注意する。

進め方 2

② 自由鑑賞

自由に自分のペースで作品を鑑賞する。作品から感じたことやその理由などをワークシートに記入する。また、それらについて友だちや教員と意見交換し合う。

低学年は、美術館が用意した鑑賞カードを用いて、作品に親しむ。

活動のヒント

団体 公益財団法人東京富士美術館
住所 〒192-0016
 東京都八王子市谷野町 492-1

TEL 042-691-4826
Mail toiwase@fujibi.or.jp

大学のリソースを生かす

大学生や大学院生が学校や地域の施設に出向き、自分たちの研究テーマに合った内容についてワークショップなどを開いています。子供たちは、少し年上の大学生から文化を学び、大いに刺激を受けています。

2016年7月、全国国公立44の大学が連携・協力し合い、芸術実践活動や人材育成プログラムを展開するために、「全国芸術系大学コンソーシアム」が設立されました。

同コンソーシアムは、「芸術分野におけるアウトリーチ先導人材」の育成・派遣プロジェクトを進めています。具体的には、小・中学校などに学生や卒業生を派遣し、ワークショップや演奏会を実施しています。

アウトリーチとは、「芸術普及活動」、「教育普及活動」、「地域連携活動」などを含む活動のこと。例えば学生や若手アーティストが直接学校や福祉施設などに出向き、コンサートを開いたり、ワークショップを行ったりします。それだけでなく演奏家やアーティストにとっては、聴き手がどのような音楽を求めているのかを知るチャンスになり、今後の演奏活動に参考になります。

大学などのアウトリーチ活動は、下表の通りです。

▼図表6 大学などのアウトリーチ活動

大学等の名前	アウトリーチ活動
東京音楽大学	東京音楽大学は、2005年からACTプロジェクトに取り組んでいる。ACTプロジェクトは、キャリア教育の一環で、音楽のプロをめざす実体験プログラム。例えば地域の自治体と連携し、地域に密着したコンサートを開き、聴き手のニーズを探ったり、学内および学外で開催されるサロンコンサートを学生主導で企画したりしている。
桐朋学園大学音楽学部 キャリア支援センター	現場で活動している音楽家によるアウトリーチ講座を実施。講座参加者を中心に、近隣の学校や諸施設での実践をする中で、社会と関連を持つ音楽の提示方法を習得している。実践にあたっては、聴衆や地域の特性を鑑みたプログラム作り、楽曲をより身近に感じながら聴いてもらえる紹介の仕方などを研修で学ぶことになる。また、地元財団との連携により調布国際音楽祭「ミュージック・カフェ」の企画演奏などを学生が実際に行っている。
昭和音楽大学	地域貢献と学生自身の成長を実現し、社会性を持った音楽人の育成を行う取り組みである。川崎市麻生区を中心に、地域の多様な場での演奏指導活動や区役所・教育委員会等と連携した活動を行っている。
東京藝術大学 アトリエゾンセンター	・足立区立の小学校・中学校を対象に、音楽鑑賞会や部活動の指導、音楽科授業補助などを実施。 ・足立区民を対象に「アウトリーチコンサート」を実施している。 ・こども園を対象に、コンサートやワークショップを実施している。 ・小学校・中学校の音楽教員を対象に研修会を開催している。
東京藝術大学×東京都美術館 とびらプロジェクト	東京藝術大学と東京都美術館が連携し、美術館を拠点にアートを軸にコミュニティをつくるプロジェクト。 18歳以上の「アート・コミュニケータ（愛称：とびラー）」を募集している。とびラーは、社会の中の美術館の役割を考えながら、人と人、人と作品、人と美術館をつなぐ活動をしている。
東京藝術大学 Museum Start あいうえの	上野公園に集積される9つの文化施設を連携させ、子供と大人が共に学び合うラーニング・デザインプロジェクト。 学校向けプログラムとファミリー向けプログラムの両方が用意されている。子供たちはとびラーとコミュニケーションすることによって鑑賞を深めることができる。
お茶の水女子大学 サイエンス &エデュケーションセンター	空き教室の有効活用、そしてフィールドだけに留まらない海体験の場の提供を目的として、教室1つ分に展開可能な教室ミュージアム「海のめぐみをいただきます！展」を開発。日本財団助成による海洋教育推進の一環で、海の無い東京都北区や渋谷区の小中学校を皮切りに、貸出しをスタートした。身近な水産物をテーマに、教科をまたぐ複数の切り口から海への気づきを与える。

活動例

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーションセンターのアウトリーチ活動 「海のめぐみをいただきます！展」



▲ワカメ等がゆらゆらと動く海藻トンネルを抜けると、展示空間が広がる。



▲教室に展開される生態・食・水産業の3つのコーナーで、水産物を掘り下げる。



▲いつもの教室が、ある日突然ミュージアムに。



▲プロジェクションマッピングを使った導入映像。毎日の食事の中の水産物に気づく。

第1章 文化プログラムの概要

第2章 文化プログラムの事例集

第3章 発展型の文化プログラムの事例集

第4章 企画から実施までのワークフローと注意ポイント

第5章 2020年とその先に向けて

【ポイント】文化プログラム推進のポイントー文化を伝承するための教員育成

地域アーツカウンシルの専門性を生かす

時間数 2時間×4回 合計 8時間

講師 日本舞踊、三味線などの師匠

ねらい 伝統文化の授業を実施できる教員を育成する。

対象 小学校、中学校の教員

ダンスやピアノを習う子供は多い一方、日本舞踊や三味線、琴などを習う子供は激減しています。日常生活の中で日本文化に触れる機会が減り、伝統文化を伝承する必要性は高まる中で、伝統文化を教えることができる教員への期待も高まっています。

1 >>> ACTION 教員が学び伝統文化を伝承する

小・中学校において、伝統や文化に関する学習の充実が求められていますが、伝統文化についてどのように指導したらいいかと悩んでいる教員もいます。

そうした背景から、多くの学校は、地域の人的資源を生かし、地域の文化伝承者や実演家を外部講師として授業に参加してもらうなどの工夫をしています。しかし、児童や生徒との接点である教員が伝統文化を直接児童生徒に伝えることが継続、継承のためのポイントです。そのためには、教員が児童生徒に伝統文化を指導できるようになるための研修等が求められています。

そこでアーツカウンシル新潟は、一般財団法人新潟市音楽芸能協会と協力し、小・中学校の教員向けに研究会を立ち上げ、伝統文化のよさを体感し、授業を实践できる教員の学びの場づくりをめざしています。

学校や伝統文化の継承者とのネットワーク、地域の伝統文化についての知識を蓄積しているアーツカウンシルだからこそ、伝統文化を自信をもって教材として取り扱うことができる教員を育成できると、アーツカウンシル新潟はとらえています。

2 >>> ACTION 教員同士が話し合い授業を考える

研究会は4回行われます。日本舞踊、三味線、鳴り物などについての知識を学んだうえで、実際に身体を動かして実習し、どのように授業に取り入れたらいいかを教員同士がフィードバックします。

研究会では、どのような授業を行ったらいいかを話し合います。教員同士が話し合うことにより、いろいろなアイデアが湧いてきます。教員は、研究会で学んだことや話し合いをもとに、子供たちの実態に即したカリキュラムを組み立てていきます。

例えば伝統音楽を指導する際には、単に音楽を教えるだけでなく、所作や身体の使い方にも配慮することが大切です。

最近は、畳の部屋が少なくなり、子供たちは畳に座る習慣が少なくなっています。そのため、座る姿勢、お辞儀のしかた、立ち方など一連の動作と奏法などとの関わりなどを扱うことも重要です。教員は、このような所作や身体の使い方などについても学びます。

研究会のような場を設けることにより、教員自身が伝統文化を自ら学び、継承していくことの大切さを知ることができます。

活動例



▲教員同士の話し合い



▲実技講習

進め方 1

① 第1回目

日本舞踊についての知識、実技、フィードバック

② 第2、3回目

三味線、鳴り物についての知識、実技、フィードバック

③ 第4回目

芸妓による長唄舞の実技、仕事を通じた伝統文化継承の説明

CHECK 注意ポイント

子供たちに所作や身体の使い方、一連の動作と奏法との関わりなどを教えることができるように、日本舞踊の師匠や芸妓から学んだことを日常生活の中でも実践する。

活動のヒント

地域の伝統文化の継承者の協力を得る。

団体 アーツカウンシル新潟

公益財団法人 新潟市芸術文化振興財団

住所 〒951-8131

新潟市中央区白山浦 1-613-69 新潟市
開発公社会館 3F

TEL 025-234-4530

Mail artscouncil@niigata.email.ne.jp

【コラム】文化芸術による子供の育成事業

子供たちの創造力・想像力、思考力、コミュニケーション能力を養う

文化庁、文部科学省では、「文化芸術による子供の育成事業」を行っています。この事業は、学校現場で、子供たちが質の高い文化芸術に触れ、ワークショップなどを体験することを通じて、豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養うとともに、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。

1. 巡回公演事業

文化庁が選定した文化芸術団体が、学校の体育館や文化施設でオーケストラ、演劇等の巡回公演を行います。本公演前に文化芸術団体が実施校へ赴き、鑑賞指導や実技指導を行うワークショップでは、公演の鑑賞や児童・生徒との共演をより効果的なものとすることができます。普段授業などで使っている体育館が、工夫次第で素晴らしい舞台へと変わっていく様子を体感することができます。



▲巡回公演事業

2. 芸術家の派遣事業

個人又は少人数の芸術家による講話や実技披露、実技指導を実施します。講話や実技披露では、芸術への関心を高めさせ、優れた芸術を鑑賞することができます。また、ワークショップ等の実技指導を行うことで、日頃触れることのできない貴重な体験をし、芸術を身近なものと感じることができます。



▲芸術家の派遣事業

3. コミュニケーション能力向上事業

芸術家を学校に派遣し、芸術家の表現手法を取り入れた計画的・継続的なワークショップを実施します。児童生徒が協働して正解のない課題に創造的・創作的に取り組む活動を通して、コミュニケーション能力の育成を図ります。

第5章

2020 年とその先に向けて

- 東京 2020 大会に向けた文化プログラムの枠組み

東京 2020 大会に向けた文化プログラムの枠組み

文化プログラムは、テーマや実施主体の違いにより 3 種類のプログラムがあります (図表 7)。

- ①東京 2020 公認文化オリンピック
- ②東京 2020 応援文化オリンピック
- ③ beyond2020 プログラム

1 2020 年に向けた「文化プログラム」の種類

▼図表 7 東京 2020 大会に向けた「文化プログラム」

	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会		文化を通じた機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議
プログラム	東京 2020 文化オリンピック	東京 2020 公認文化オリンピック 東京 2020 応援文化オリンピック	beyond2020 プログラム
			
概要	オリンピック憲章に基づいて行われる公式文化プログラム	オリンピック憲章に基づいて行われる公式文化プログラム	2020 年以降を見すえ、レガシー創出に資する文化プログラム
実施主体	主なステークホルダー (組織委員会、政府、開催都市、会場所在地自治体、公式スポンサー、JOC、JPC、大会放送権者)	会場所在地以外の地方自治体、独立行政法人を含む非営利団体、スポーツ関連の国内競技団体、学校関係、商工会議所・商工会、公益法人等。	営利・非営利を問わず、多様な団体。文化オリンピックの実施団体に加えて、公式スポンサー以外の企業も対象。
実施内容	大会ビジョンの実現にふさわしい文化芸術性の高い事業を実施。	オリンピック・パラリンピックムーブメントを裾野まで広げる事業を実施。	共生社会、国際化につながるレガシーを創出する事業を実施。
テーマ	スポーツ・健康、街づくり、教育、経済・テクノロジー	持続可能性、文化、復興、オールジャパン・世界への発信	日本文化の魅力の発信、障害者にとってのバリアを取り除く取組み、または外国人にとっての言語の壁を取り除く取組み
備考			オリンピック・パラリンピックの文言使用は不可。

2 東京 2020 文化オリンピックに申請するには

東京 2020 応援文化オリンピックに参画することを希望する団体は、所定の審査基準・要件を充足させたうえで、Web から申請を行い、認証を得ることができます（申請できる実施主体には制限があります。）。

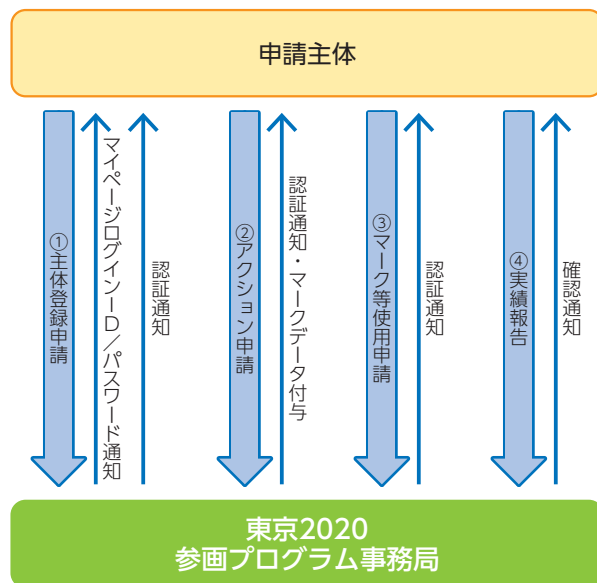
応援プログラムが認証されると

- ・東京 2020 公認マークまたは東京 2020 応援マーク及び各プログラム名を使用することができます。
- ・「オリンピック・パラリンピック」などの文言を使用することができます。

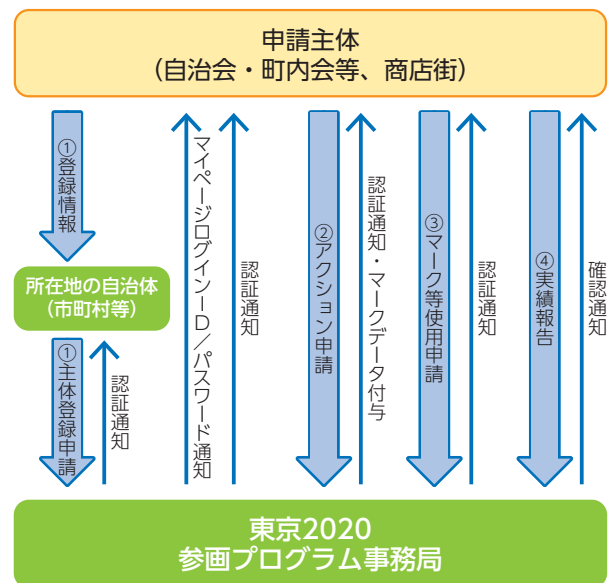
※使用（掲出）方法については組織委員会の確認が必要です。

応援プログラムの Web 申請の流れは以下の通りです。

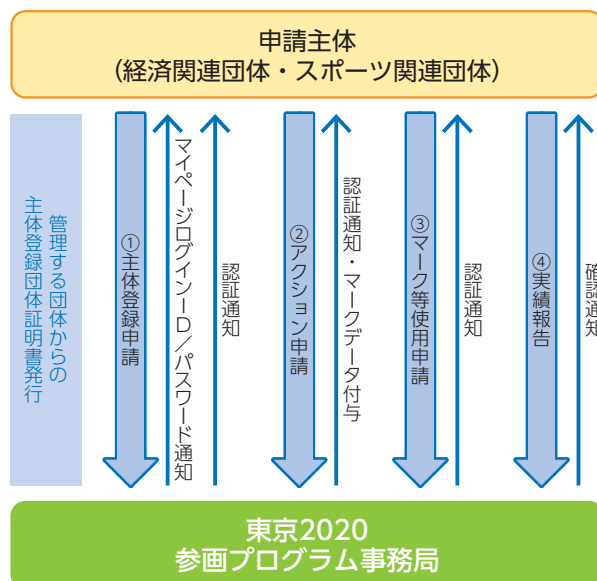
申請の概略



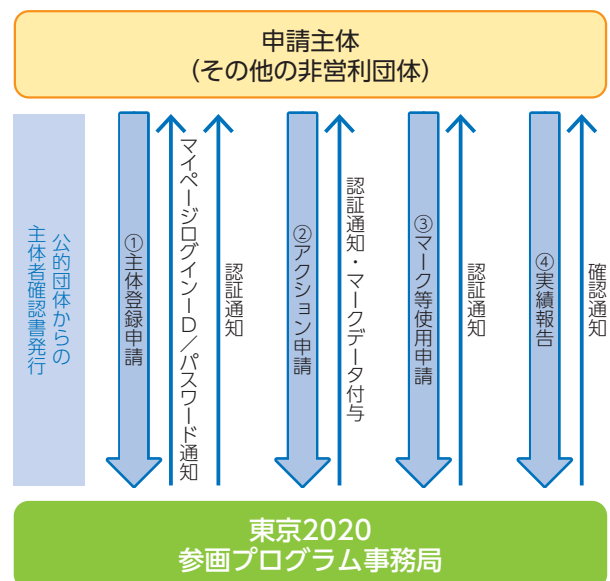
自治会・町内会・商店街の場合



経済関連団体・スポーツ団体の場合



その他の非営利団体（一般財団・社団・NPO法人等）の場合



3



東京 2020 公認文化オリンピックの取組み

東京 2020 公認文化オリンピックでは、以下の通り日本の文化、芸術を表す多彩なプログラムが展開されています。最新の認証状況等は、以下の Web ページで紹介されています。

<https://participation.tokyo2020.jp/jp/about/>

▼図表 8 東京 2020 公認文化オリンピック

	事業名	概要
1	文化庁芸術祭主催公演 オープニング「日本の四季」	文化庁芸術祭のオープニングイベントとして、邦楽・沖縄芸能・雅楽・日本舞踊の4ジャンルからなる華やかな伝統芸能を上演する。
2	文化庁芸術祭主催公演 10 月歌舞伎公演 「仮名手本忠臣蔵」【第 1 部】	赤穂浪士の討ち入り事件を題材にした「仮名手本忠臣蔵」を上演する。
3	文化庁芸術祭主催公演 アジアオーケストラウィーク (東京公演)	アジア地域のオーケストラとの交流を図り、アジア人による西洋音楽のスタンダードモデルの確立を目的に、東京公演を実施する。
4	文化庁芸術祭主催公演 現代舞台芸術公演オペラ公演 (ワルキューレ)	フィンランド国立歌劇場(ヘルシンキ)の協力のもと、世界トップクラスの指揮者、歌手、オーケストラが最高水準の公演を創造する。
5	スポーツ・文化・ワールド・フォーラム 文化会議分科会 「文化芸術資源で未来をつくる～輝き続ける日本へ～」	全国で文化プログラム実施を促進するためのキックオフイベントとして、各地の意欲的な取組を発表し、レガシーの創出等について議論する。
6	スポーツ・文化・ワールド・フォーラム 文化芸術活動を通じた多様性を尊重する社会の実現に向けて	文化芸術活動を通じた多様性を尊重した社会の実現に向け、障害のある方々による芸術活動や障害のある方々に係る活動をテーマとしたシンポジウムを実施する。
7	スポーツ・文化・ワールド・フォーラム 「ここから—アート・デザイン障害を考える 3 日間—」	障害のあるアーティストが生み出す作品からなる展覧会等を通じて、障害の有無に関わらず調和して生きる取組を紹介する。
8	スポーツ・文化・ワールド・フォーラム バリアフリー映画上映等実施・運営業務	聴覚障害者用のバリアフリー日本語字幕、視覚障害者用の音声ガイドを付して映画を上演する。あわせて、バリアフリー映画に対する理解を深めるためのシンポジウムを実施する。
9	国民文化祭・あいち 2016	国民文化祭の愛知大会では「「愛故知新」～伝統を「愛(いつく)しみ、新しさを「知」り、文化は動く～」のテーマのもと、関連イベントを実施する。
10	国民文化祭・あいち 2016 「食文化シンポジウム」	生活文化に深く関わる食文化を見つめ直し、海外に誇るべき日本の食文化への理解促進を図るためのシンポジウムを実施する。
11	文化庁メディア芸術祭 20 周年企画展—変える力	「変化」をキーワードに、これまで 20 年間の歩みを振り返りつつ、作品が持つ「変える力」に焦点を当てることで、メディア芸術の未来について考察する。
12	文化庁メディア芸術祭新潟展 「記憶と記録のモノ語り」	優れたメディア芸術と優秀なアーティストに接する機会を提供することによって、メディア芸術の理解を深め、発展に資することを目的とする。

13	「実演芸術連携交流事業」シンポジウム 『実演芸術で世界とつながる～アジアの オーケストラの事例から』	アジアオーケストラウィークとの協力により、国内外の芸術団体・ 劇場・音楽堂等の専門家同士の情報共有とネットワーク形成を目 指すシンポジウムを実施する。
14	文化芸術創造都市推進事業 「自治体サミット」	文化芸術を核に地域づくりに取り組む地方自治体の先進的な取組 を紹介するシンポジウムを実施する。
15	危機的な状況にある言語・方言サミット (奄美大会)・与論	危機的な状況にある言語・方言の状況改善につなげることを目的 とした大会を実施する。
16	神社・仏閣・能楽堂などを活用した実演 芸術拠点の形成プロジェクト (和の空間を活用した伝統文化発信)	神社・仏閣・能楽堂などを活用した地域の芸能を活かした実演、 芸術の観賞機会を提供する。
17	とちぎの元気を世界に！～とちぎ版文化プ ログラムを考える～	とちぎの文化資源を発掘・育成し、とちぎ版文化プログラムへの 参加協力を促し、県内各地での文化による地域づくりの方向性を 議論する。
18	文化プログラムシンポジウム in 新潟	地域固有の文化プログラムづくりを推進し、地域ごとに文化プロ デュースを担う人材の発掘を目的としたシンポジウムを実施する。
19	未来を担う美術家たち 19th DOMANI・明日展 文化庁芸術家 在外研修の成果	文化庁新進芸術家海外研修制度により海外の機関・作家のもとで 研修した新進芸術家たちの展覧会を実施する。
20	文化プログラムシンポジウム in 大阪	官民連携で地域文化発信を目的としたシンポジウムを実施する。
21	東アジア文化都市 2017 京都オープニング関 連事業	日中韓 3 か国の東アジア文化都市が文化交流を行うとともに、さ まざまな文化芸術イベント等を実施する。
22	東アジア文化都市 2017 京都 (平成 29 年度 事業分)	日中韓 3 か国の東アジア文化都市が文化交流 (アーティストの相 互派遣) を行うとともに、現代美術、舞台芸術、マンガ、アニメ などの文化芸術イベントを実施する。
23	障害者の文化芸術国際交流事業「2017 ジャ パン×ナントプロジェクト」	日本の障害者による優れた芸術文化を世界に発信し、普及促進を 展開する。

4 多彩なプログラムが展開される beyond 2020 プログラム

東京 2020 大会は、文化プログラムを通じて日本の魅力を発信する絶好の機会です。この機会に、2020 年以降を見据え、日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーを創り出すことが求められており、こうしたレガシー創出に資する文化プログラムを「beyond 2020 プログラム」として認定し、日本全国に展開していくこととしています。

文化庁が主催または認証した beyond 2020 プログラムにおける取組みの一部を図表 9 に示します。

最新の認証状況等は、以下の Web ページで紹介されています。

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/beyond2020link/jigyolist.html

▼図表 9 文化庁が主催または認証した beyond2020 プログラムにおける取組み（一部）

1	文化プログラムシンポジウム in 大阪	官民連携による地域文化の発信や文化遺産の産業化に関するシンポジウムを実施する。
2	フライデー・ナイト・ミュージアム @ 上野	美術館・博物館が連携し、夜間開館を活用したナイトプロジェクトを実施することで、新たな文化発信拠点・観光拠点としての活用を目指す。
3	芸術系大学連携による人材育成型アートプロジェクト	地域社会と協働しながら文化プログラムを企画実施する人材を育成するためのプロジェクトを全国芸術系大学コンソーシアムと連携して実施する。

文化庁が認証した beyond 2020 プログラムには、図表 10 のものがあります。

▼図表 10 文化庁が認証した beyond2020 プログラム

1	「SOMPO アート・ファンド」キックオフミーティングおよび活動報告会イベント
2	富士山国際美術展 Japan × Korea 『アートと解脱』展
3	プロジェクトスクール @3331
4	平成 29 年度国立現代建築資料館 収蔵品展
5	ニッポンたからものプロジェクト～日本遺産× Live Art

教育現場における文化プログラムノウハウ集 検討委員会

(職名は平成 30 年 2 月現在)

飯澤 公夫 東京都八王子市立陶鎔小学校長
真田 久 筑波大学体育専門学群長
早川 修一 東京都練馬区立向山小学校長
箕口 一美 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科講師

(敬称略 50 音順)

報告書の作成に当たっては、次の者が協力した。

杉浦 幹男 新潟市芸術文化振興財団アーツカウンシル新潟プログラム・ディレクター

文化庁においては、次の者が担当した。

高田 行紀 文化庁 長官官房政策課 企画調整官
阿部 敬利 文化庁 長官官房政策課 文化プログラム推進室
出口 修 文化庁 長官官房政策課 文化プログラム推進室
杉村 彩子 文化庁 長官官房政策課 文化プログラム推進室

発 行 文化庁 長官官房政策課

所在地

〒100-8959

東京都千代田区霞が関 3 - 2 - 2

編集／編集協力 株式会社学研教育みらい
株式会社ユーミックス